

# 日本における大学生の生活行動と意識構造

——特に地域差，大学種別差，性差を中心として——\*，\*\*

駒 崎 勉

## I ま え が き

1965年以来，4年ごとに筆者は大学生の生活，意識，態度などに関する実態調査を行ってきた<sup>(1)</sup>。当初，被験者数も少なく，サンプルにも質的な偏りがあったが，1977年第5回の調査以降，サンプル数を増やし統計的处理に十分耐えるよう心がけた。また，サンプル抽出も日本の大学生を代表しうるよう，その質的平均化を図ってきた<sup>(2)</sup>。

今回1989年度（第7回）の調査は，1,200名の男女大学生を調査対象に抽出した。調査の目的の重点も81年度までは主に性差をとりあげ，85年度<sup>(3)</sup>では大学生の専攻系列差と性差をとりあげたが，今回は視点を変え，地域差，国公立大，私立大，短大など大学種別差，および性差を明らかにすることとした。

こうした継続的調査研究は，現代の社会環境とともに歩む青年の姿と，時代や環境の影響をあまり受けない，いわば青年期特有の姿とを明らかにすることでもあり，これも本研究目的の一つである。

さらには，こうした研究の結果から，現在の大学生のみならず，大学や社会のかかえる問題についても若干の考察を総括の部分で行いたい，と思う。

## II 今回の調査研究の目的と内容

今回の調査の目的の概要は，Iにおいてすでに述べたことでもあり，ここでは今次調査の内容を中心に記していこう。

1965年，第1回の調査以来，変えることなく取上げてきた次の8領域にわたる諸問題を中心に調査項目を作成した。すなわち，〔A〕大学と大学生生活，〔B〕宗教，〔C〕職業，〔D〕余暇，〔E〕政

\* 本研究は1989年度城西大学研究奨励金（個人研究）の交付を受けて行われたものである。

\*\* 研究の要旨の一部については，1990年10月，第57回日本応用心理学会大会において，速報として口頭発表を行った。

治・社会，〔F〕文化，〔G〕友人・異性，〔H〕家族の8領域をテーマとした項目50を用意した。

大学種別としては，4年制国公立，同私大，私立短大をとりあげたが，国公立短大は表1に示したごとく，大学生総数の中で占める比率が小さく，今回は調査対象から除外した。

さて，国公立大と私大，さらに短大は，それぞれに何らかの個性や特質があり，社会的にも一つのイメージを形成していることが多い。また，都市部や地方の大学にもそれぞれに特徴があるといわれ，時には偏見に近い表現で区別されることもある。大学生の性差も，また然りである。しかし果してそうした差異や特徴があるものなのだろうか，あるとすればどんな面で，いかなる理由によるものなのか。これらの諸点を明らかにし，検討することによって現代社会の中に生きる大学生像を浮きぼりにし，かれらを取りまく社会的問題についても考察をしてみたいと思う。

また，過去の調査や他の研究者<sup>(6~17)</sup>による同類の調査結果とも随時比較検討してみたい。

### Ⅲ 調査方法

#### 1. 調査時期及び調査対象者の抽出

1989年11月から1990年2月にわたって調査を実施した。調査実施大学の種別と数，および大学所在地は次の通りである。

**大学種別と数：**7国公立大学8学部，8私立大学15学部，8私立短期大学13学科，計23大学36学部（学科）

**大学所在地：**北海道，宮城，福島，群馬，埼玉，東京，静岡，富山，石川，大阪，鳥取，沖縄の12都道府県\*\*\*。

表1 1989年度大学入学者数と今回の抽出サンプル数比較

| 大学種別    | 性別 | 人数            |            | 男女別<br>サンプル数<br>(人) | 計<br>(人) | 構成比<br>(%) |
|---------|----|---------------|------------|---------------------|----------|------------|
|         |    | 全入学者数<br>(千人) | 構成比<br>(%) |                     |          |            |
| 国公立大学   | ♂  | 112           | 15.9       | 180                 | 251      | 20.9       |
|         | ♀  |               |            | 71                  |          |            |
| 私立大学    | ♂  | 365           | 52.0       | 400                 | 633      | 52.8       |
|         | ♀  |               |            | 233                 |          |            |
| 国公立短期大学 | ♂  | 16            | 2.3        | 0                   | 0        | 0.0        |
|         | ♀  |               |            | 0                   |          |            |
| 私立短期大学  | ♂  | 210           | 29.9       | 20                  | 316      | 26.3       |
|         | ♀  |               |            | 296                 |          |            |
| 計       | ♂  | 371           | 52.8       | 600                 | 1,200    | 50.0       |
|         | ♀  | 331           | 47.2       | 600                 |          | 50.0       |

\*\*\* 同一大学の場合でも，学部が他県に散在しているときは，その所在地ごとに1大学として数えた。また，同一都県内に学部が散在した時は，その学部を合せて1大学と数えた。

表 2 抽出サンプルと全大学の入学者の学科系列の比率比較

| 学科系列別   | 男 子                  |                       | 女 子                    |                         | 合 計                    |                         |
|---------|----------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|
|         | サンプルの数               | 全大学89年<br>入学者         | サンプルの数                 | 全大学89年<br>入学者           | サンプルの数                 | 全大学89年<br>入学者           |
| 人 文     | 人(%)<br>40<br>( 6.7) | 千人(%)<br>28<br>( 7.5) | 人(%)<br>147<br>( 24.5) | 千人(%)<br>106<br>( 32.0) | 人(%)<br>187<br>( 15.6) | 千人(%)<br>133<br>( 18.9) |
| 社 会     | 263<br>( 43.8)       | 161<br>( 43.4)        | 210<br>( 35.0)         | 40<br>( 12.1)           | 473<br>( 39.4)         | 201<br>( 28.6)          |
| 理 工     | 190<br>( 31.7)       | 108<br>( 29.1)        | 59<br>( 9.8)           | 11<br>( 3.3)            | 249<br>( 20.8)         | 119<br>( 17.0)          |
| 保 健・医 療 | 60<br>( 10.0)        | 28<br>( 7.5)          | 41<br>( 6.8)           | 24<br>( 7.3)            | 101<br>( 8.4)          | 52<br>( 7.4)            |
| 教 育     | 47<br>( 7.8)         | 18<br>( 4.9)          | 93<br>( 15.5)          | 55<br>( 16.6)           | 140<br>( 11.7)         | 73<br>( 10.4)           |
| 家 政     | 47<br>( 7.8)         | —<br>( —)             | 50<br>( 8.3)           | 66<br>( 18.9)           | 50<br>( 4.2)           | 66<br>( 9.4)            |
| そ の 他   | 0<br>( 0.0)          | 28<br>( 7.5)          | 0<br>( 0.0)            | 30<br>( 9.1)            | 0<br>( 0.0)            | 58<br>( 8.3)            |
| 計       | 600<br>(100.0)       | 371<br>( 99.9)        | 600<br>(100.0)         | 331<br>(100.3)          | 1,200<br>(100.1)       | 702<br>(100.0)          |

上記大学の男女1～2年生2,247名に対し、アンケート用紙を配付、調査を行った。調査時期を学年末の11月から2月とした理由は、1年次生が大学生活に順応し、大学生としての実態を把握しようと考えたからである。また、被験者には浪人生が多数居るため、対象の年齢は18～22歳までとし、23歳以上の極めて少数のデータは除外した。

以上の2,247名の調査票から無効データ38枚を差引いた2,209枚を、表1、2に示した1989年発表の文部省による大学入学者数速報<sup>(4)</sup>に基づいて大学種別、学部(科)構成別、男女別などの比率を出来る限り日本の大学生を代表しうる期待値に近づけるべくサンプリングした。そして最終対象者を男女各600名、合計1,200名とした。この手続きは前回の調査<sup>(8)</sup>と同様である。

## 2. 調査方法と調査内容

アンケートを各大学で学生に手渡し、原則として授業中の教室内で一斉記入させた。無記名式でもあり、回収率は98～100%に達し、無効回答は1.7%であった。

質問事項は、IV結果と考察のところで順次示すが、さきに述べたごとく8領域にわたり、大学生の学内、外の生活行動と、かれらの内的、外的態度や意識をカバーする設問50から成っている。この領域と質問項目は1954年、教師養成研究会が実施した調査項目<sup>(6)</sup>に拠るところが大きい。

## Ⅳ 結果と考察

以下、順を追って各領域の結果を示したあと、考察も各領域ごとに行う。

結果の表示については、まず都市と地方との比較、次に大学種別による比較、そして平均の項は性差を比較しつつ同時に大学生の全体像が読みとれるように配列してある。しかし男子の短大生は全大学生に対する構成比が小さく、結果の表示はしたものの考察のさいに、あえてその対象とはしなかった。

地域差、大学種別差、性差が認められたものについては、 $\chi^2$  検定の結果  $p < 0.05$  以下のレベルで有意差を示したもので、今回特に注目すべきものについて、表中に高率を示したものの方に\*を付した。\*、\*\*

なお、表示の数値はすべて%であり、文章記述内の%は小数点以下は4捨5入している。さらに男子は♂、女子は♀の記号を用い、国公立大学→国公立、私立大学→私大、私立短期大学→私短、もしくは、たんに短大と、それぞれ略記した。また、都市部の大学の基準は、政令指定都市とその周辺衛星都市で50km圏内に所在するものとした。

### 〔A〕 大学と大学生

#### (1) 大学進学目的

表 3 大学進学目的（2個選択回答）

(%)

| 項目                            | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-------------------------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                               | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ⑦就 職 の た め                    | ♂  |  | 34.7  | 41.5* | 38.6  | 37.8  | 37.8  | 38.0  |
|                               | ♀  |  | 38.9  | 43.9* | 42.1  | 38.2  | 42.5  | 40.7  |
| ①友 人 が 進 学 す る<br>か ら         | ♂  |  | 1.8   | 0.7   | 1.2   | 1.4   | 0.0   | 1.3   |
|                               | ♀  |  | 1.4   | 0.9   | 0.8   | 1.2   | 1.3   | 1.2   |
| ②高 校 以 上 の 勉 学<br>を し た い     | ♂  |  | 9.7   | 9.8   | 14.5* | 7.6   | 8.1   | 9.8   |
|                               | ♀  |  | 13.5  | 11.8  | 10.5  | 13.4  | 12.5  | 12.7  |
| ③高 学 歴 を 得 る<br>た め           | ♂  |  | 9.9   | 14.5  | 13.3  | 11.2  | 21.6  | 12.2  |
|                               | ♀  |  | 8.6   | 9.2   | 9.0   | 6.8   | 10.4  | 8.9   |
| ④親 を 安 心 さ せ る<br>た め         | ♂  |  | 6.7   | 5.5   | 6.7   | 5.9   | 5.4   | 6.1   |
|                               | ♀  |  | 4.7   | 4.5   | 6.0*  | 2.7   | 5.7   | 4.6   |
| ⑤資 格 取 得 の た め                | ♂  |  | 16.6* | 8.9   | 6.7   | 16.1* | 5.4   | 12.8  |
|                               | ♀  |  | 8.1   | 12.3  | 11.3  | 12.2  | 8.4   | 10.2  |
| ⑥就 職 す る ま で<br>の ん び り し た い | ♂  |  | 10.1  | 12.4  | 10.7  | 11.2  | 16.2  | 11.2  |
|                               | ♀  |  | 17.7  | 11.4  | 12.0  | 17.8* | 12.8  | 14.6* |
| ⑦そ の 他                        | ♂  |  | 10.4  | 6.8   | 8.4   | 8.8   | 5.4   | 8.6   |
|                               | ♀  |  | 8.0   | 6.4   | 8.3   | 7.8   | 6.4   | 7.1   |
| 計                             | ♂  |  | 99.9  | 100.1 | 100.1 | 100.0 | 99.9  | 100.0 |
|                               | ♀  |  | 100.1 | 100.4 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 |

## (2) 大学生の長所

この項目は現在の大学生の長所を2つ選択、回答させたものである。

表4 大学生の長所（2個選択回答）

| 項目        |   | 種別    |       |       |       |       |       | 平均 |
|-----------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
|           |   | 都市    | 地方    | 国公立   | 私大    | 私短    | (%)   |    |
| ⑦明るさ      | ♂ | 35.2  | 35.1  | 33.5  | 35.8  | 36.6  | 35.1  |    |
|           | ♀ | 35.9  | 36.2  | 38.2* | 33.6  | 37.2  | 36.0  |    |
| ①積極性      | ♂ | 5.9   | 5.6   | 6.7   | 5.7   | 0.0   | 5.8   |    |
|           | ♀ | 7.5   | 9.0   | 6.9   | 7.9   | 8.8   | 8.2   |    |
| ⑦自由な行動と考え | ♂ | 40.1  | 40.7  | 42.0  | 40.2  | 31.7  | 40.4  |    |
|           | ♀ | 42.2  | 42.5  | 40.3  | 42.6  | 42.5  | 42.3  |    |
| ⑤創造性      | ♂ | 7.6   | 7.9   | 5.2   | 8.9   | 7.3   | 7.8   |    |
|           | ♀ | 4.9   | 5.6   | 4.9   | 5.6   | 5.1   | 5.3   |    |
| ④人を思いやる心  | ♂ | 3.0   | 2.8   | 2.3   | 3.0   | 7.3   | 2.9   |    |
|           | ♀ | 2.2   | 2.0   | 3.5   | 2.5   | 1.8   | 2.1   |    |
| ⑦がまん強さ    | ♂ | 0.0   | 0.7   | 0.3   | 0.4   | 0.0   | 0.3   |    |
|           | ♀ | 1.2   | 0.7   | 1.4   | 0.9   | 0.9   | 1.0   |    |
| ⑤勉学熱心     | ♂ | 1.2   | 0.4   | 1.5   | 0.4   | 2.4   | 0.8   |    |
|           | ♀ | 0.2   | 0.2   | 0.7   | 0.0   | 0.2   | 0.2   |    |
| ⑦まじめさ     | ♂ | 1.9   | 1.9   | 2.9   | 1.2   | 7.3   | 1.9   |    |
|           | ♀ | 1.9   | 0.9   | 0.7   | 2.1   | 1.1   | 1.4   |    |
| ⑦その他      | ♂ | 5.2   | 4.8   | 5.5   | 4.6   | 7.3   | 5.0   |    |
|           | ♀ | 4.1   | 2.9   | 3.5   | 4.9   | 2.5   | 3.5   |    |
| 計         | ♂ | 100.1 | 99.9  | 99.9  | 100.2 | 99.9  | 100.0 |    |
|           | ♀ | 100.1 | 100.0 | 100.1 | 100.1 | 100.1 | 100.0 |    |

\* 本文記述の中で、「有意に多い」、「有意に減少」などといった表現を使用している場合は、いずれも「統計学的にみて有意な差を示した」時に用いている。

\*\* 表3の場合、項目⑦就職のため、♂地方41.5%、♀43.9%は何れも\*が付されているが、これは比較対照となる都市との間に男子、女子とも、それぞれ有意差が認められたことを示している。

また、平均の欄の\*は性差を示し、例えば表3の④の項目は男女間に有意差が認められたことを表わしている。

## (3) 大学生の短所

表 5 大学生の短所（2個選択回答）

(%)

| 項目       | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦暗       | ♂  |  | 0.9   | 1.8   | 1.4   | 1.3   | 0.0   | 1.3   |
|          | ♀  |  | 0.2   | 1.1   | 0.7   | 0.2   | 0.9   | 0.6   |
| ①消 極 性   | ♂  |  | 8.2   | 10.2  | 8.6   | 9.1   | 15.4  | 9.2   |
|          | ♀  |  | 7.6   | 8.0   | 8.5   | 8.3   | 7.2   | 7.8   |
| ㊱堅 苦 し い | ♂  |  | 1.5   | 1.9   | 2.0   | 1.3   | 7.7   | 1.7   |
|          | ♀  |  | 1.2   | 2.0   | 1.4   | 2.1   | 1.2   | 1.6   |
| ㊲冷 た い   | ♂  |  | 2.9   | 2.6   | 2.6   | 2.5   | 10.3  | 2.8   |
|          | ♀  |  | 4.2   | 2.9   | 1.4   | 3.9   | 3.8   | 3.6   |
| ㊳わ が ま ま | ♂  |  | 10.9  | 7.5   | 10.0  | 8.6   | 15.4  | 9.2   |
|          | ♀  |  | 13.5  | 12.6  | 12.0  | 13.0  | 13.4  | 13.1* |
| ㊴不 勉 強   | ♂  |  | 30.3  | 30.2  | 31.2  | 30.5  | 15.4  | 30.2  |
|          | ♀  |  | 26.4  | 29.7  | 32.4* | 27.1  | 27.6  | 28.0  |
| ㊵無 責 任   | ♂  |  | 19.9  | 18.4  | 21.5* | 18.3  | 15.4  | 19.2  |
|          | ♀  |  | 21.5* | 16.7  | 20.0  | 18.5  | 19.5  | 19.2  |
| ㊶遊 び す ぎ | ♂  |  | 23.5  | 24.9  | 20.6  | 26.0* | 20.5  | 24.2  |
|          | ♀  |  | 20.6  | 22.6  | 19.7  | 21.1  | 22.4  | 21.6  |
| ㊷そ の 他   | ♂  |  | 2.0   | 2.5   | 2.0   | 2.5   | 0.0   | 2.2   |
|          | ♀  |  | 4.9   | 4.5   | 4.2   | 5.8   | 4.0   | 4.7   |
| 計        | ♂  |  | 100.1 | 100.1 | 99.9  | 100.1 | 100.1 | 100.0 |
|          | ♀  |  | 100.1 | 100.1 | 100.3 | 100.0 | 100.0 | 100.2 |

## (4) アルバイトの経験

表 6 アルバイトの経験（年間）

(%)

| 項目                | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-------------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                   | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊸ほ ぼ 毎 日          | ♂  |  | 4.6   | 9.8   | 7.2   | 6.3   | 25.0  | 7.2   |
|                   | ♀  |  | 11.1  | 12.9  | 11.3  | 6.4   | 16.6* | 12.0* |
| ④6 カ月以上           | ♂  |  | 19.7  | 20.7  | 21.7  | 19.3  | 25.0  | 20.2  |
|                   | ♀  |  | 27.5  | 25.5  | 32.4* | 23.6  | 27.4  | 26.5* |
| ㊹1 カ月以上<br>6 カ月未満 | ♂  |  | 38.7  | 36.3  | 34.4  | 39.8* | 20.0  | 37.5* |
|                   | ♀  |  | 31.5  | 34.8  | 35.2  | 34.3  | 31.8  | 33.2  |
| ㊺1 カ月以下           | ♂  |  | 19.7  | 20.3  | 22.2  | 19.0  | 20.0  | 20.0  |
|                   | ♀  |  | 16.1  | 16.2  | 12.7  | 17.2  | 16.2  | 16.2  |
| ㊻全 く し ない         | ♂  |  | 17.1* | 12.9  | 14.4  | 15.5  | 10.0  | 15.0  |
|                   | ♀  |  | 13.8* | 10.3  | 8.5   | 18.0* | 8.1   | 12.0  |
| ㊼無 答              | ♂  |  | 0.3   | 0.0   | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.2   |
|                   | ♀  |  | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.4   | 0.0   | 0.2   |
| 計                 | ♂  |  | 100.1 | 100.0 | 99.9  | 100.2 | 100.0 | 100.1 |
|                   | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 99.9  | 100.1 | 100.1 |

## (5) 授業中の“代返”や出席票の不正使用

地域差：男子では都市地方両群に差はなく、「全くしない」が各48%、46%を示した。女子では地域差が認められ、「全くしない」が、都市31%地方55%、「時々する」は都市22%地方12%で都市に不正者が有意に多い。

大学種別：男子では「全くしない」が国公立54%私大44%、「時々」が国公立14%私大17%と国公立に不正が幾分少ない。しかし女子はこの逆で、「全くしない」が国公立27%私大47%短大44%と、国公立に不正が有意に多い。

性差：著しい性差はない。全体で男子47%女子43%が「全くしない」といい、「ごくまれ」は男子33%女子40%、「時々」が男子18%女子17%を示した。

## (6) 大学（制度）に対する問題点

地域差：男子ではほとんど差はない。都市、地方ともに、15~16%が「入学難」「勉強のつまらなさ」「一般教育のあり方」などを挙げている。僅かな差として、都市の「学費の高さ」19%が、地方の16%をやや上回った。女子も男子と同様の傾向だが、都市の「勉強のつまらなさ」18%に対し、地方は14%であった。

大学種別：3群間にやや差が目立った。男子では「学費の高さ」が国公立11%に対し、私大では21%を示した。「勉強のつまらなさ」が国公立17%私大13%、「一般教育のあり方」が18%と14%、大学の個性欠如がそれぞれ13%と7%を示した。女子では入学難を挙げたものが1位であったが、大学種別差はない。しかし、ここでも「学費」が国公立8%に対して私大では16%短大20%と大差をみせた。

性差：全体的にみて男女とも「受験の難しさ」が16~17%を占め、「勉強のつまらなさ」も15%と性差は全くない。「一般教育のあり方」については男子の15%に対し、女子は8%にとどまった。

## (7) 学生からみた大学教員の長所

表7 大学教員の長所（2個選択回答） (%)

| 項目        | 種別  |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-----------|-----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|           | 性 別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦ 気 易 さ   | ♂   |  | 13.9  | 15.0  | 15.4  | 13.9  | 16.2  | 14.4  |
|           | ♀   |  | 14.6  | 20.9* | 15.9  | 16.4  | 19.3* | 17.8  |
| ㊧ 寛容など人格者 | ♂   |  | 21.8  | 19.6  | 20.8  | 20.5  | 24.3  | 20.7  |
|           | ♀   |  | 16.8  | 18.1  | 18.9  | 17.6  | 17.0  | 17.5  |
| ㊨ 学 生 思 い | ♂   |  | 7.2   | 5.5   | 5.1   | 7.0   | 5.4   | 6.4   |
|           | ♀   |  | 4.3   | 7.1   | 5.8   | 3.9   | 7.1   | 5.7   |
| ㊩ 研 究 熱 心 | ♂   |  | 13.3  | 19.0* | 18.7* | 15.1  | 13.5  | 16.1  |
|           | ♀   |  | 21.7* | 14.8  | 17.4  | 21.2  | 16.0  | 18.2  |
| ㊪ 教 育 熱 心 | ♂   |  | 4.9   | 9.2   | 5.4   | 7.5   | 10.8  | 7.0   |
|           | ♀   |  | 9.3   | 9.9   | 2.2   | 6.6   | 13.7* | 9.6   |
| ㊫ 巧みな教え方  | ♂   |  | 6.5   | 3.1   | 2.7   | 5.9   | 2.7   | 4.9   |
|           | ♀   |  | 3.0   | 5.2   | 7.2   | 3.2   | 4.1   | 4.1   |
| ㊬ 博 識     | ♂   |  | 19.3  | 18.5  | 22.3* | 17.7  | 13.5  | 18.9  |
|           | ♀   |  | 18.7* | 13.4  | 17.4  | 19.4  | 13.0  | 16.0  |
| ㊭ そ の 他   | ♂   |  | 13.2  | 10.0  | 9.6   | 12.4  | 13.5  | 11.6  |
|           | ♀   |  | 11.7  | 10.6  | 15.2  | 11.6  | 9.8   | 11.2  |
| 計         | ♂   |  | 100.1 | 99.9  | 100.0 | 100.0 | 99.9  | 100.0 |
|           | ♀   |  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 99.9  | 100.0 | 100.1 |

## (8) 学生からみた大学教員の短所

表 8 大学教員の短所 (2個選択回答)

(%)

| 項目             | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦堅 苦 し い       | ♂  |  | 11.5  | 12.8  | 13.8  | 11.3  | 13.5  | 12.2  |
|                | ♀  |  | 12.8  | 15.2  | 15.2  | 13.1  | 14.4  | 14.0  |
| ①威張るなど非人<br>格的 | ♂  |  | 20.7  | 20.6  | 17.6  | 21.7  | 27.0  | 20.7  |
|                | ♀  |  | 16.8  | 17.8  | 17.7  | 14.5  | 19.8* | 16.3  |
| ㊧指 導 力 不 足     | ♂  |  | 12.9  | 15.0  | 15.0  | 13.6  | 10.8  | 13.9  |
|                | ♀  |  | 15.8  | 14.3  | 12.3  | 16.3  | 14.7  | 15.0  |
| ㊨や る 気 に 欠 く   | ♂  |  | 13.8* | 9.6   | 13.5* | 11.3  | 2.7   | 11.7  |
|                | ♀  |  | 12.3  | 11.6  | 13.0  | 14.9* | 9.4   | 12.0  |
| ㊩冷 た い         | ♂  |  | 8.5   | 8.6   | 8.4   | 8.2   | 18.9  | 8.6   |
|                | ♀  |  | 10.6  | 12.7  | 10.9  | 9.9   | 13.1  | 11.6  |
| ㊪下 手 な 教 え 方   | ♂  |  | 21.6  | 24.7* | 21.6  | 23.9* | 18.9  | 23.1  |
|                | ♀  |  | 21.3  | 19.0  | 19.6  | 21.0  | 19.7  | 20.2  |
| ㊫能 力 不 足       | ♂  |  | 3.2   | 2.3   | 2.6   | 3.0   | 0.0   | 2.8   |
|                | ♀  |  | 2.3   | 1.6   | 2.9   | 2.0   | 1.6   | 1.9   |
| ㊬そ の 他         | ♂  |  | 7.8   | 6.5   | 7.5   | 7.0   | 8.1   | 7.2   |
|                | ♀  |  | 8.1   | 7.8   | 9.4   | 8.4   | 7.3   | 8.0   |
| 計              | ♂  |  | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 99.9  | 100.0 |
|                | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 99.9  | 100.0 |

## (9) 大学生活における満足感

表 9 大学生活の満足感

(%)

| 項目                   | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                      | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦あ り                 | ♂  |  | 37.7  | 40.0  | 46.1* | 36.5  | 20.0  | 38.8  |
|                      | ♀  |  | 37.9  | 35.4  | 47.9* | 41.2  | 30.4  | 36.7  |
| ①な し                 | ♂  |  | 15.7* | 11.2  | 8.9   | 15.5* | 15.0  | 13.5  |
|                      | ♀  |  | 16.1* | 10.6  | 11.3  | 13.3  | 13.9  | 13.3  |
| ㊧ど ち ら と も い え<br>ない | ♂  |  | 44.3  | 48.5  | 44.4  | 46.3  | 65.0  | 46.3  |
|                      | ♀  |  | 44.3  | 52.0* | 39.4  | 43.8  | 53.7* | 48.2  |
| ㊨そ の 他               | ♂  |  | 1.0   | 0.3   | 0.6   | 0.8   | 0.0   | 0.7   |
|                      | ♀  |  | 0.7   | 1.0   | 0.0   | 1.0   | 1.0   | 0.8   |
| ㊩無 答                 | ♂  |  | 1.3   | 0.0   | 0.0   | 1.0   | 0.0   | 0.7   |
|                      | ♀  |  | 1.0   | 1.0   | 1.4   | 1.0   | 1.0   | 1.0   |
| 計                    | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
|                      | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.3 | 100.0 | 100.0 |



## 考 察

大学進学のための目的や動機については、全体として「就職のため」が1位であり、大学が将来の就職のワンステップである、という意識は男子の場合77年の調査以来、定着している。しかし「就職するまで、のんびりしたいから」と答えたものも、ついで多く、都市の私大女子では18%に達した。この項目は複数（2個）回答であるため、同一の者が「就職の手段」と「モラトリアムの役割」という二つを大学の機能に挙げているとみてよい。「高校以上の勉学をしたい」者も国公立で男子15%女子11%を数えたものの、大学のもつ役割が現実には学問の府から、就職の手段と休息の場と化しつつあることもまた事実である。そして大方の点で大学種別による進学目的の差が少ないこと、さらには性差があまり認められないことも注目されよう。今や大学生の勉学意識に差異などほとんどなく、平準化がすすんでいる、とみてよい。

大学生は自らの長所や短所をどう捉えているかは、自己を見つめるさいの客観性や自己をどの程度、他者に表現するか、という自己開示性という点からも興味深い。表4に示した通り、「自由な活動性」と「明るさ」が群を抜き、男女各35~42%を占めた。「創造性」は何れのケースでも1割未満で、「まじめ」「勉強熱心」「我慢強さ」などは0~2%で皆無に近い。しかもこうした結果は、地域差、大学差、性差何れも全くないといってよい。実態もそうであろうし、それをよとする風潮もかれらの意識の中にあるとすると、日本の大学生の生き方は、躁的行動力に象徴される、といっても過言ではない。自我の確立期を迎えた青年にとっての自己評価としては、憂慮される問題であろう。

他方、短所については表5に示したごとく、「不勉強」「遊びすぎ」「無責任」などを挙げたものが多く、20~30%を占めている。「不勉強」はともかく、間もなく社会人として活躍する大学生が「無責任さ」を男女とも一様に大学生の短所として挙げていることは注目される。とりわけ都市の女子、国公立の男子にその傾向が強いのも興味深い。社会的、国際的に重要な事件が生じたような場合、いわゆる街の声として何を問われても、「分らない」「関係ない」「まあ、いいじゃないですか」などという答えが返ってくる。これも現代の大学生の無責任さのあらわれでもあろう。

また、短所に「暗い」「消極的」「堅い」といった重苦しいイメージは、ほとんど皆無にひとしい。これらを表4の長所と重ね合わせるとき、先の結論は一層、明確となる。最高学府の理念や崇高な大学の使命をいかほど大学が説いても、現実はそのとは乖離した状態であり、かれらの自己開示性の高さや正直さも、結局、開き直りに近い、次元の低いものなのではなかろうか。

大学生の収入源がアルバイトに依存していることは表6が如実に示している。男子は都市で24%地方で31%が年間の半分をアルバイトに費している。アルバイトの実態に大学種別はなく、性差は女子の方が有意にアルバイト日数が多い。平均して女子の4割が年間の大半をアルバイトしているが、男子は27%にとどまっている。この項目では地域差や大学種別差が少ないので、女子

のバイト率が高いことは全体的に女子は男子よりも小遣いを多く支出するからでもあろう。後述するように家庭から貰う小遣いの金額は性差が全くみられないことから、アルバイトが多い分だけ女子の支出の多いことを示すようである。

出席票の不正使用は、たんにモラルの問題というよりも勉学への取組み方、熱心さの問題である。この項目では性差が少ないが大学種別でみると国公立で著しい性差がみられ、「全く不正をしない」女子は、男子のその半数である。女子のずるさのゆえか、良い成績をとりたいたからか、何れにしても大差をみせた。

大学（制度）に対する問題点の指摘の項では大学種別差が大きく、特に国公立で「一般教育のつまらなさ」と私大、短大の「学費の高さ」への不満は大きい。これらは現在、大学のかかえている問題点に的を絞って指摘している、とあってよい。

かれらは大学教員をどんな目で捉えているのだろうか。全体として長所には「寛容」「気易さ」「研究熱心」「博識」などが目立ち、地域差は少ない。大学種別では、短大に「気易さ」や「教育熱心」を挙げるものが多いが、「研究熱心」や「博識」は国公立に多い。しかし概して大学教員像に大学種別の差は少ない。

教員は兼務校を多く持ち、特に私大にその傾向は著しい。これも教員像の全国画一化の原因であろう。しかし、短所としては都市に「やる気を欠く」教員が有意に多く評価されている。また短大に「威張る」「冷たい」などの評価が多いが、短大は大学規模が比較的小さく、それゆえに教員との関わりが高いことがかえって短所を多く取り上げる結果となったのであろう。一方、国公立に「指導力不足」「やる気の欠如」が有意に多い。国公立教員が比較的に身分の安定、研究条件の優位性などから自己を試されることが少なく、その自覚の低さや安住感が学生の目に厳しく映じた、ともいえまいか。

以上の諸点を概括する意味で、かれらの大学生活の満足度は興味深い。満足度は、男女とも国公立に高く5割にも達するが私立短大女子のそれは3割にとどまり、一般に私大生の不満足感が目立った。しかしすでに述べたごとく、大学の問題点として、「学費」について以外ではむしろ国公立の方に「勉強がつまらない」などの不満が多いので、私大生の大学生活の不満足感の真の原因や理由は推測しかねる。なお満足度の性差では、女子の方にやや満足度が高かった。これは、中村<sup>(6)</sup>らの研究でも明らかにされている。しかしそれによると、どちらかといえば友人との交際のように、勉学そのものの以外での充実感が多いようである。

## 〔B〕 宗教と大学生

## (1) 宗教に対する態度

表 10 宗教に対する態度 (％)

| 項目                 | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|--------------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                    | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦自分の生活に宗教は必要である    | ♂  |  | 4.6   | 6.8   | 7.2   | 4.8   | 10.0  | 5.7   |
|                    | ♀  |  | 6.4   | 8.3   | 7.0   | 8.2   | 6.8   | 7.3   |
| ㊧不 必 要             | ♂  |  | 55.1  | 60.3  | 63.3* | 55.8  | 45.0  | 57.7* |
|                    | ♀  |  | 55.4* | 43.0  | 57.7* | 53.6  | 43.6  | 49.2  |
| ㊨どちらともいえない、または分らない | ♂  |  | 40.0* | 32.8  | 29.4  | 39.3* | 45.0  | 36.5  |
|                    | ♀  |  | 38.3  | 48.3* | 35.2  | 37.8  | 49.7* | 43.4* |
| ㊩無 答               | ♂  |  | 0.3   | 0.0   | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.2   |
|                    | ♀  |  | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.4   | 0.0   | 0.2   |
| 計                  | ♂  |  | 100.0 | 99.9  | 99.9  | 100.2 | 100.0 | 100.1 |
|                    | ♀  |  | 100.1 | 99.9  | 99.9  | 100.0 | 100.0 | 100.1 |

## (2) 宗教を信じない人の心の拠りどころは何か。

表 11 宗教を信じない人の心の拠りどころ (％)

| 項目     | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|--------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦自 己   | ♂  |  | 35.1  | 35.6  | 43.9* | 32.0  | 25.0  | 35.3* |
|        | ♀  |  | 19.8  | 17.6  | 21.1  | 19.7  | 17.2  | 18.7  |
| ㊧友 人   | ♂  |  | 17.4  | 19.3  | 17.8  | 18.8  | 15.0  | 18.3  |
|        | ♀  |  | 21.8* | 17.2  | 16.9  | 19.3  | 20.3  | 19.5  |
| ㊨家 族   | ♂  |  | 8.9   | 8.8   | 7.2   | 10.0  | 0.0   | 8.8   |
|        | ♀  |  | 11.7  | 10.3  | 15.5* | 11.6  | 9.5   | 11.0  |
| ㊩恋 人   | ♂  |  | 5.9   | 2.4   | 1.7   | 5.3   | 5.0   | 4.2   |
|        | ♀  |  | 8.1   | 9.6   | 11.3  | 6.4   | 10.1  | 8.8   |
| ㊪そ の 他 | ♂  |  | 13.8  | 17.3  | 15.0  | 15.3  | 25.0  | 15.5  |
|        | ♀  |  | 18.5  | 17.3  | 12.7  | 18.9* | 18.2* | 17.8  |
| ㊫無 答   | ♂  |  | 19.0  | 16.6  | 14.4  | 18.8  | 30.0  | 17.8  |
|        | ♀  |  | 20.1  | 28.1  | 22.5  | 24.0  | 24.7  | 24.2  |
| 計      | ♂  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.2 | 100.0 | 99.9  |
|        | ♀  |  | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.3 | 100.0 | 100.0 |

## 考 察

1973年の筆者の調査以降、宗教を信ずる学生は減少の一途をたどっている。そして85年では男子40%女子27%が「宗教は不必要」と答えたが、今回は、さらに各58%49%と激増している。

今回の調査では、幾分、地方よりも都市の女子に「不必要」が多いが、これを大学種別でみると国公立、私大、短大の順に「不必要」の率は低くなり、有意差が認められた。

また表11では、宗教を信じない者の心の拠りどころとして、「自己」や「友人」を挙げた率が高いが、ここでは地域差はなく大学種別の面では若干の特徴がつかめた。すなわち、国公立が私大、短大よりも「自己」依存率が有意に高く、一方、私大や短大は「友人」依存率がやや高い。さらに女子は「家族」が国公立、私大、短大の順で有意に低い率となっていく。

国公立の男子に宗教を信じない者が著しく多く、自己を頼る率が高いことは、かれらの一見、自我の確立を示唆するものといえる。しかし同じ国公立でも、女子は「家族」に依存する率が著しく高く、反対に私大や特に女子短大に家族依存度が著しく低いのは、宗教上の問題というよりも大学入学までの家族のかかわり方が関与している問題なのかもしれない。それは後述の表32～38などをみると、一層明確となろう。自我形成期における家族の機能の差異がこの宗教を信じないものの心の拠りどころによく表われた、といえそうである。それにしても現代の大学生の宗教離れの一面と、一方では若者の占いブーム、さらには血液型信仰とでもいいたい非科学的態度<sup>(7)</sup>とは一見して矛盾するようであるが、実は共通している現象といえよう。自然に対する畏怖の念の薄れと、占いに代表される指示待ち人間の主体性の欠如は、現代の人間の自我の弱さと、軽薄さの象徴なのであろう。

## 〔C〕 職業と大学生

### (1) 親の職業の継承

地域差：男子は都市67%地方64%が親のあとを継いだり、同じ道を歩むつもりはない、と答え、女子も各77%、83%の高率を示した。

大学種別：男子私大が国公立よりも、あととり否定が少なく、63%と73%で僅差がみられた。

性差：あととり肯定は男子11%女子5%、否と答えたものは男子66%女子80%で有意差がみられた。

### (2) 職業選択の基準と希望する企業の規模

地域差、大学種別差、性差何れも認められず、男子1位が適性と興味、2位給与、3位将来性、4位勤務条件、5位企業の知名度で、女子は3位と4位が入れ替っている。

また、かれらの希望する就業先の規模をみると、男子46.3%が大企業を希望し、これには大学種別差は認められない。地方より都市部に若干、大企業志向傾向がみられた。中規模企業は31.3%、小企業や個人企業は12.2%で、1965年の調査以来、大規模企業志向が増加の傾向を示し、中小企業は減少している。

女子の場合、大規模企業が45.2%、中規模が40.2%、小規模や個人企業が7.0%であり、大学種別差、地域差ともに認められない。男子よりも女子に中規模企業希望者が有意に多かった。

## (3) 将来の生活設計をどう描いているか。

表 12 将来の生活設計 (%)

| 項目             | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国公立   | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦家庭第一ののんびりした生活 | ♂  |  | 28.9  | 42.0* | 37.8  | 34.3  | 35.0  | 35.3  |
|                | ♀  |  | 33.9  | 43.4* | 39.4* | 30.5  | 44.9* | 38.7  |
| ㊧生きがいを見つけた生活   | ♂  |  | 57.7  | 52.9  | 55.0  | 55.3  | 60.0  | 55.3  |
|                | ♀  |  | 61.1* | 53.6  | 60.6  | 62.7* | 52.4  | 57.3  |
| ㊨会社(仕事)第一の生活   | ♂  |  | 1.3   | 0.0   | 0.0   | 1.0   | 0.0   | 0.7   |
|                | ♀  |  | 1.0   | 0.3   | 0.0   | 0.9   | 0.7   | 0.7   |
| ㊩社会に貢献するような生活  | ♂  |  | 8.9   | 3.1   | 4.4   | 6.8   | 5.0   | 6.0   |
|                | ♀  |  | 2.3   | 2.0   | 0.0   | 3.9   | 1.4   | 2.2   |
| ㊪そ の 他         | ♂  |  | 3.3   | 2.0   | 2.8   | 2.8   | 0.0   | 2.7   |
|                | ♀  |  | 1.6   | 0.7   | 0.0   | 2.1   | 0.7   | 1.2   |
| 計              | ♂  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.2 | 100.0 | 100.0 |
|                | ♀  |  | 99.9  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.1 |

## (4) 結婚後、女性の就業に対しどんな態度をもっているか。

表 13 女性の就業に対する態度 (%)

| 項目                | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国公立   | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-------------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                   | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦結婚に関係なく、専門職として働く | ♂  |  | 10.8  | 11.9  | 13.9* | 10.5  | 5.0   | 11.3  |
|                   | ♀  |  | 23.5* | 15.2  | 22.5  | 27.0* | 12.5  | 19.3* |
| ㊧出産後も職をもって働く      | ♂  |  | 10.2  | 15.3* | 18.9* | 10.0  | 10.0  | 12.7  |
|                   | ♀  |  | 25.5  | 31.8* | 36.6* | 29.6  | 26.0  | 28.7* |
| ㊨第一子出産まで働く        | ♂  |  | 19.3  | 15.3  | 14.4  | 18.0  | 30.0  | 17.3  |
|                   | ♀  |  | 14.4  | 15.6  | 12.7  | 10.7  | 18.9* | 15.0  |
| ㊩パートタイマー程度に働く     | ♂  |  | 19.3  | 22.7  | 18.3  | 22.0  | 25.0  | 21.0* |
|                   | ♀  |  | 14.1  | 14.2  | 11.3  | 11.6  | 16.9* | 14.2  |
| ㊪結婚後はできるだけ就業しない   | ♂  |  | 23.9  | 22.4  | 20.6  | 24.5  | 20.0  | 23.2* |
|                   | ♀  |  | 16.1  | 15.2  | 12.7  | 13.3  | 18.2* | 15.7  |
| ㊫わからない            | ♂  |  | 14.1  | 11.5  | 12.8  | 13.0  | 10.0  | 12.8  |
|                   | ♀  |  | 6.4   | 7.9   | 4.2   | 7.7   | 7.4   | 7.2   |
| ㊬無 答              | ♂  |  | 2.3   | 1.0   | 1.1   | 2.0   | 0.0   | 1.7   |
|                   | ♀  |  | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |
| 計                 | ♂  |  | 99.9  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
|                   | ♀  |  | 100.0 | 99.9  | 100.0 | 99.9  | 99.9  | 100.1 |

(5) 大学生が児童期のころ、母親は職業をもっていたか。

表 14 児童期における母親の就業状況 (%)

| 項目        | 種別<br>性別 | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|           |          |       |       |       |       |       |       |
| ㊦いつも働いていた | ♂        | 29.8  | 40.3* | 33.9  | 34.3  | 60.0  | 35.0  |
|           | ♀        | 35.9  | 41.7* | 36.6  | 36.9  | 40.9* | 38.8  |
| ㊧時々働いていた  | ♂        | 12.5  | 14.2  | 14.4* | 13.3  | 5.0   | 13.3  |
|           | ♀        | 9.1   | 9.6   | 7.0   | 8.2   | 10.8  | 9.3   |
| ㊨専業主婦であった | ♂        | 52.1* | 41.0  | 48.3  | 47.0  | 25.0  | 46.7  |
|           | ♀        | 50.3* | 43.4  | 46.5  | 50.2* | 44.3  | 46.8  |
| ㊩そ の 他    | ♂        | 5.6   | 4.4   | 3.3   | 5.5   | 10.0  | 5.0   |
|           | ♀        | 4.7   | 5.3   | 9.9   | 4.7   | 4.1   | 5.0   |
| ㊪無 答      | ♂        | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |
|           | ♀        | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |
| 計         | ♂        | 100.0 | 99.9  | 99.9  | 100.1 | 100.0 | 100.0 |
|           | ♀        | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 99.9  |

## 考 察

親の職業の継承は、特定の職業以外、現在の社会構造上からも意味を失いつつある。そこで、「親と同じような道を歩みたいか」という、設問を用いた。結果として地域差は認められなかった。大学種別では国公立が私大に比し、あととり意識がやや低い。国公立に特定の職業の親が集中しているとは考えにくいので、かれらの主体性、独自性の表われ、とみるべきか。

職業選択の基準については、過去2回の調査と大差ない。1位に適性と興味を挙げ、企業の知名度を最下位に選んでいることは極めて健全な職業選択意識であり、しかも大学種別差が何ら認められなかったことは、今や社会の大学に対する格差の評価をよそに、かれら自身は大学格差やエリート意識を持たなくなる傾向のようである。しかし、この推論は、かれらの本音とは異なる、という反論も生じよう。そこで、かれらの描く自分たちの将来生活設計を調べてみた。

表12をみると将来の生活設計について6割近くが「生きがいのみたす生活」を望んでいる。その答えには、性差も大学種別差も殆んどない。また、国公立は私大よりも「家庭第一ののんびりした生活」を望むものが有意に多いのも興味深い。男子学生にとって将来、結婚相手となる可能性の高い女子短大が、半数近くは「家庭第一ののんびりした生活」を望んでいることを併せ考える時、国際的摩擦を生じさせている日本人の働きバチ的生活行動も、遠くない将来に青年たちの意識構造から変革がはじまるのではなかろうか。

次に女性の就業に対する意識をみてみよう。表13に示したように、女性の就業に対する態度、意識に地域差は認められない。しかし大学種別では顕著な差をみせた。他の領域には見られぬほ

どの大きな差である。「結婚とは無関係のキャリアやスペシャリスト」ないしは「出産後も職をもつ」ことを肯定する者が男女とも国公立に著しく多く、次に私大、短大の順に少なくなる。そして「パート程度の就業」や、「結婚後は女性は就業しない」が短大女子を中心に私大に多い。この点、高嶋<sup>(8)</sup>らも同様な指摘をし、大学4年生の57%が自己の性役割を積極的に受入れ、その根拠に責任の軽さがある、という。さらに平均すると女子よりも男子の方が女性の働くスタイルを嫌う傾向が著しい。

国公立が女性の就業に肯定的なのは、大学進学を、長い将来に亘った職業生活と結びつけているからであろう。対照的に女子短大は就業に消極的である。彼女たちは、長い職業生活を望まなかったからこそ短大進学を選択したという見方も出来る。どちらをとっても今や大学選択が就業の問題を軸に行われていることを示唆している。

また、男子は一般に女性の就業を否定的にみている。これは日本の男子大学生のたんに保守的なことを示すものではなく、むしろ暗に自らの職を奪われる危機感や、女性のかくれた有能さに対する劣等意識が根底にあるのではなかろうか。

最後にかねらの児童期における母親の就業状態をみてみよう。この項目でも大学種別差がみられ、「いつも働いていた」のは女子短大に最も多く、反対に「専業主婦」は女子短大に最も少ない。彼女たちは児童期から母親との関わりという点で淋しい生活を経験している。今回、多くの項目で女子短大生が特徴的な態度や行動を示していたが、あるいは彼女たちの生育歴の影響も考えられる。「将来は専業主婦を」の希望が短大女子に多いのも自らの満たされなかった欲求への願望が働いたという分析も成立つであろう。また女子が、国公立を除き、「女性のキャリア的就業」を嫌うのはたんに学生時代ゆえの甘えではない。1990年11月、鐘紡株式会社による首都圏の未婚OL400名へのアンケート調査<sup>(9)</sup>（回答率81%）によると、「仕事よりも結婚」を希望するものが92.6%にも及び、「キャリアガール」という名称に30.9%が否定的、13.6%が肯定的で、上述してきた女子大生の意識を裏付ける結果となっている。

## 〔D〕 余暇と大学生

### (1) 余暇の時間

地域差：全体的に男女とも地域差は認められない。

大学種別：ここでも部分的な差はあるがとりあげるほどではない。しかし女子に短大、私大、国公立の順に余暇の時間は少なくなる。毎日「1時間」と答えたものが短大6%私大10%国公立14%となっている。これに対し「3時間から4時間」の余暇と答えたものは国公立41%私大短大ともに52%と、私立に余暇が多い。

性差：「1時間」程度の余暇は男子9%女子15%、「2,3時間」が男子38%女子47%、「4時間以上」は男子52%女子37%と、女子よりも男子の方に余暇があり、有意差を示した。

## (2) 余暇時間の使い方

表 15 余暇の使い方 (2個選択回答)

(%)

| 項目                   | 種別  |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------------------|-----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                      | 性 別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦家事をする               | ♂   |  | 4.8   | 5.0   | 5.0   | 5.0   | 3.4   | 4.9   |
|                      | ♀   |  | 6.2   | 7.9   | 11.1  | 8.3   | 5.1   | 7.0   |
| ㊧友人とおしゃべりしたり, 遊ぶ     | ♂   |  | 31.3  | 29.8  | 27.0  | 31.9  | 37.3  | 30.6  |
|                      | ♀   |  | 37.7  | 36.9  | 36.7  | 37.5  | 37.2  | 37.3* |
| ㊨読書をする               | ♂   |  | 7.7   | 7.4   | 9.9   | 6.7   | 3.4   | 7.6   |
|                      | ♀   |  | 5.3   | 4.7   | 5.8   | 5.9   | 4.1   | 5.0   |
| ㊩ゴロ寝する               | ♂   |  | 10.5  | 14.3  | 14.9* | 11.2  | 11.9  | 12.3* |
|                      | ♀   |  | 6.0   | 6.7   | 8.2   | 5.3   | 6.7   | 6.4   |
| ㊪勉強する                | ♂   |  | 3.9   | 5.8   | 6.8   | 4.1   | 1.7   | 4.8   |
|                      | ♀   |  | 3.9   | 5.0   | 5.8   | 5.0   | 3.7   | 4.5   |
| ㊫T Vをみる              | ♂   |  | 13.8  | 14.6  | 13.8  | 14.8  | 6.8   | 14.2  |
|                      | ♀   |  | 11.5  | 13.5  | 7.3   | 8.4   | 17.0* | 12.5  |
| ㊬ショッピングをしたり, ぶらぶら過ごす | ♂   |  | 16.5  | 15.8  | 15.9  | 15.7  | 27.1  | 16.1  |
|                      | ♀   |  | 22.6  | 20.1  | 18.9  | 21.3  | 22.0  | 21.4* |
| ㊭スポーツをする             | ♂   |  | 6.3   | 6.4   | 3.3   | 5.7   | 3.4   | 4.9   |
|                      | ♀   |  | 3.6   | 1.5   | 1.9   | 4.4   | 1.2   | 2.5   |
| ㊮そ の 他               | ♂   |  | 5.1   | 4.0   | 3.5   | 5.0   | 5.1   | 4.5   |
|                      | ♀   |  | 3.3   | 3.8   | 4.4   | 3.8   | 3.1   | 3.6   |
| 計                    | ♂   |  | 99.9  | 100.1 | 100.1 | 100.1 | 100.1 | 99.9  |
|                      | ♀   |  | 100.1 | 100.1 | 100.1 | 100.0 | 100.1 | 100.2 |

## 考 察

大学種別では、国公立が私大よりも幾分余暇は少ないが、それ以上に性差の方が多くみられた。ともあれ、1日「4時間以上の余暇」があると答えたものが男子52%女子37%にも及ぶことは、現代の大学生の実態を理解する上の前提条件ともいえる。これほどの余暇をもつ背景には、大学の制度のあり方にも問題があろうし、さらには、入るに難しく出るに易しい、という大学の姿を社会も認める風潮、そして厳しい受験戦争と、勉強よりも学歴至上の社会構造も、この大学生の大いなるヒマづくりの遠因となっているのではないだろうか。

余暇時間の使い方をみると、かれらの生活実態をさらに知ることが出来る。余暇の使い方地域差はなく、かれらの同一生活様式と同一精神構造は、同時画一性をもったマスメディアを通して大学生すべてに同様なくらし方をもたらしたのであろう。それは大学種別でみた時、一層その感を深くする。「友人との付き合いや、おしゃべり」に時を費やすものは、女子の場合、国公立37%私大38%短大37%とあまりの差のないことに驚かされる。"私大生は遊び、国公立大生は勉強



## (3) 1カ月の小遣

表 16 1カ月の小遣（家賃，食費，通学経費，教科書代等を除く） (%)

| 項目             | 種別<br>性別 | 都市            | 地方            | 国公立            | 私大            | 私短            | 平均           |
|----------------|----------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|--------------|
|                |          | ⑦4,999円以下     | ♂<br>♀        | 8.2<br>5.7     | 8.1<br>8.3    | 7.8<br>8.5    | 8.5<br>8.6   |
| ⑧5千円～<br>1万円未満 | ♂<br>♀   | 16.1<br>15.8  | 18.3<br>23.5* | 17.8<br>12.7   | 17.5<br>15.0  | 5.0<br>25.0*  | 17.2<br>19.7 |
| ⑨1万円～<br>2万円未満 | ♂<br>♀   | 26.9<br>22.8  | 30.5<br>33.8* | 36.7*<br>32.4* | 24.8<br>21.0  | 35.0<br>33.1* | 28.7<br>28.3 |
| ⑩2万円～<br>3万円未満 | ♂<br>♀   | 22.3<br>28.5* | 19.3<br>18.9  | 20.0<br>26.8   | 21.3<br>30.9* | 20.0<br>17.2  | 20.8<br>23.7 |
| ⑪3万円～<br>4万円未満 | ♂<br>♀   | 13.4<br>14.8* | 14.6<br>9.6   | 10.0*<br>12.7  | 16.3<br>13.7  | 5.0<br>10.8   | 14.0<br>12.2 |
| ⑫4万円以上         | ♂<br>♀   | 11.5<br>11.7  | 9.2<br>5.6    | 7.2<br>7.0     | 10.8<br>10.7  | 30.0<br>7.4   | 10.3<br>8.7  |
| ⑬無答            | ♂        | 1.6           | 0.0           | 0.6            | 1.0           | 0.0           | 0.8          |
|                | ♀        | 0.7           | 0.3           | 0.0            | 0.0           | 1.0           | 0.5          |
| 計              | ♂        | 100.0         | 100.0         | 100.0          | 100.0         | 100.0         | 100.0        |
|                | ♀        | 100.0         | 100.0         | 100.0          | 100.0         | 100.0         | 100.0        |

する”，といった旧来のイメージは偏見であることが分る。読書もTVも街でブラブラするのも、そして女子では勉強も、その余暇時間の使い方に大学種別による差はみられないのである。むしろ「ゴロ寝」が国公立にやや多いのが目立つ程である。

その点、むしろ性差の方が際立つ。女子に「友人とのおしゃべり」や「街をブラブラする」が多く、「ゴロ寝」は男子に多い。

大学生にとって余暇は友人としゃべり、街をブラブラ歩き、TVをみて疲れたらゴロ寝する、という姿が共通したくらしであり、いささか生産性に欠く感も否めない。しかし友人としゃべることが余暇利用の第1位であることの意味は、現代の大学生（青年）が受験戦争の苛酷さに起因する人間関係の渇きや、家庭における会話の不足をひたすら取戻そうとしている姿ともいえまいか。

大学生の小遣の額をみると、男子は私大が国公立よりもやや多く、女子は短大が国公立や私大より有意に低額である。女子短大生がアルバイトを他の2群よりも多くしている点を併せ考えると、彼女たちの家庭が、かなり厳しい経済的状況の中で子女を短大に通わせていることを推測できる。



## (3) 憲法第9条はどの程度理解されているか。

表 18 憲法第9条の理解度 (%)

| 項目  | 種別 |  | 都市    | 地方    | 国公立   | 私大    | 私短    | 平均    |
|-----|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|     | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ⑦正答 | ♂  |  | 54.8  | 53.6  | 62.8* | 51.0  | 40.0  | 54.2* |
|     | ♀  |  | 45.3  | 49.3  | 74.6* | 49.4  | 39.2  | 47.3  |
| ①誤  | ♂  |  | 11.8  | 10.8  | 10.6  | 11.8  | 10.0  | 11.3  |
|     | ♀  |  | 8.1   | 9.6   | 11.3  | 8.2   | 8.8   | 8.8   |
| ⑤無  | ♂  |  | 33.4  | 35.6  | 26.7  | 37.3  | 50.0  | 34.5  |
|     | ♀  |  | 46.6  | 41.1  | 14.1  | 42.5  | 52.0  | 43.8  |
| 計   | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.1 | 100.0 | 100.0 |
|     | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 99.9  |

## (4) 徴兵制度に対して、どんな態度をもっているか。

表 19 徴兵制度に対する態度 (%)

| 項目                 | 種別 |  | 都市    | 地方    | 国公立   | 私大    | 私短    | 平均    |
|--------------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                    | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ⑦積極的に認める           | ♂  |  | 3.3   | 2.0   | 2.8   | 2.8   | 0.0   | 2.7   |
|                    | ♀  |  | 1.3   | 0.0   | 0.0   | 0.4   | 1.0   | 0.7   |
| ①絶対に反対             | ♂  |  | 77.4  | 79.7  | 78.9  | 78.0  | 85.0  | 78.5  |
|                    | ♀  |  | 78.9  | 81.5  | 91.5* | 80.7  | 77.0  | 80.2  |
| ⑤どちらともいえない、または分らない | ♂  |  | 19.0  | 18.3  | 18.3  | 19.0  | 15.0  | 18.7  |
|                    | ♀  |  | 19.8  | 18.3  | 8.4   | 18.8  | 21.6* | 19.0  |
| ⑤無                 | ♂  |  | 0.3   | 0.0   | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.2   |
|                    | ♀  |  | 0.0   | 0.3   | 0.0   | 0.0   | 0.3   | 0.2   |
| 計                  | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 |
|                    | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 99.9  | 99.9  | 99.9  | 100.1 |

## (5) 政治・社会に対する不満

地域差：男子では、「防衛」に対し都市7%地方13%が不満と答えた。「生活環境」では都市14%、「税制」には地方が22%で4~5%ほどそれぞれ他の地域より高い率を見せた。しかし女子では10項目中、僅かに「福祉厚生」だけが都市16%地方12%と小差をみせたにすぎない。男女とも地域差は少ない。

大学種別：男子では「税制」が国公立16%私大21%、「防衛」が国公立15%私大が8%で有意差が認められたが他の項目に差はない。女子で顕著な差は「防衛」で、国公立16%私大10%短大6%が不満とし、有意差を示した。私大の不満は「教育」14%、「福祉厚生」17%、「生活環境」14%が他の2群よりも4~5%ほど多く目立つ。また短大は「税制」が35%で他の2群よりも6~10%高率である。

性差：地域、大学種別を平均すると性差はすくない。「教育」は男子15%女子12%、「福祉厚生」は男女とも14%、「政治」16%と14%、「経済」は男女とも3%、「外交」各6%と3%、「防衛」10%と9%、「生活環境」12%と11%、で性差は何れもない。僅かに「税制」のみ男子20%女子30%で有意差が認められた。

一方、不満なしは平均して男女とも2%で、地域差も大学種別差もない。

## (6) 天皇制への態度

表 20 天皇制への態度

(%)

| 項目                           | 種別  |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|------------------------------|-----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                              | 性 別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㉗ 国家元首として<br>国政に関与した<br>方がよい | ♂   |  | 3.3   | 3.4   | 2.8   | 3.3   | 10.0  | 3.3   |
|                              | ♀   |  | 8.1   | 6.6   | 2.8   | 7.3   | 8.5   | 7.3   |
| ㉘ 現在の象徴として<br>の天皇制が<br>よい    | ♂   |  | 53.8* | 46.8  | 50.6  | 51.0  | 35.0  | 50.3  |
|                              | ♀   |  | 51.7  | 53.0  | 69.0* | 48.1  | 51.7  | 52.3  |
| ㉙ 公務からは切り<br>離した天皇制が<br>よい   | ♂   |  | 10.5  | 11.2  | 12.2  | 10.5  | 5.0   | 10.8  |
|                              | ♀   |  | 7.7   | 12.3  | 9.9   | 13.3* | 7.4   | 10.0  |
| ㉚ 天皇制は廃止し<br>た方がよい           | ♂   |  | 25.6  | 25.4  | 24.4  | 26.3  | 20.0  | 25.5* |
|                              | ♀   |  | 18.8* | 12.3  | 11.3  | 17.2* | 15.2  | 15.5  |
| ㉛ 分 ら ぬ                      | ♂   |  | 6.6   | 12.2  | 8.3   | 8.8   | 30.0  | 9.3   |
|                              | ♀   |  | 13.4  | 15.2  | 7.0   | 13.7  | 16.6* | 4.3   |
| ㉜ 無 答                        | ♂   |  | 0.3   | 1.0   | 1.7   | 0.3   | 0.0   | 0.7   |
|                              | ♀   |  | 0.3   | 0.7   | 0.0   | 0.4   | 0.7   | 0.5   |
| 計                            | ♂   |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.2 | 100.0 | 99.9  |
|                              | ♀   |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 99.9  |

## 考 察

政治意識をみるために、支持政党の有無や新聞の政治欄への関心度を調査したが、そこでみる限り意識は極めて低い。

地方では男子の42%が「支持政党なし」と答え、また都市で「自民」支持が32%の高率を示したことは、都市の男子大学生の保守化、地方の無関心さを特徴づけている。女子は逆に都市に無関心派が多く、45%に達した。地方では「自民」支持率24%と高率を示した。何れにせよ「支持政党なし」は地域、性差を問わず第1位であるが、前述したように「社会に不満はない」としたものは男女とも2%であることを考えると、大方の大学生は社会的不満と政治への無関心さが共存している結果となった。両者の関係を考える習慣が形成されていないのであろう。

新聞の政治欄をどの程度、読んでいるか、という項目ではほとんど地域差がなく、全国共通して「時々読む」40~50%か、「たまに読む」26~41%程度の状態である。大学種別差も意外な程少ない。一見、社会的関心度が高いと思われるがちな国公立も、「政治欄をよく読む」は男子17%私大で15%、国公立女子6%私大5%に過ぎず、差はない。「まったく読まない」者も国公立で男子7%女子13%を数え、これまた私大や短大と比較して大差ない。

以上の点を考えると、前項で「自民支持」が支持政党中第1位であることも、たんなるイメージや、現状を無意識に受容するフィーリングの結集であり、政策に賛成とは考えにくい。

憲法第9条への理解度をみると、大学種別の差がかなり出てくる。正解は国公立、私大、短大

の順に低くなり、相互に有意差をみせた。この正答率の差は政治・社会への関心度とは関係が少なく、むしろ大学受験勉強の質量の差を表わしているといえる。国公立大生がオールラウンド型の受験勉強を経験したのに対し、私大や短大は少数科目集中型の受験勉強をした結果であろう。

また、正答率に性差が少ないこともあり、知識としての憲法理解を示すものであろう。

このように政治・社会への無関心な大学生も、徴兵制度の問題となるときわめて明確な態度を示している。そこには地域差も大学種別も性差もない。「絶対反対」が男女とも8割を数えた。しかしその内容には微妙なニュアンスの相違がある。すなわち、女子では短大に「分らぬ」が最も多い。ことによると徴兵制度のもつ意味が彼女たちの中には十分理解できなかったのではないかと、とも思える。ともかく政治・社会への無関心の中で、自己の利害関係が加わると「ノー」を明確に示したこの結果は、現代青年の特質を示すものとして注目される。

政治・社会への不満は、地域差、大学種別、性差とも比較的少ない。僅かな差異をみると男女とも私大や短大で「税制」や「福祉厚生」の問題を、国公立では「防衛」問題への不満が大きい。私大生が今日の問題を、国公立がやや抽象的に将来の問題をとりあげている。

この領域の最後で天皇制の問題をとりあげた。天皇制への態度に地域差はあまりないが、女子で「天皇制廃止」に賛成するものが都市で19%地方で12%と僅かな差をみせた。大学種別では差もみられず、現行の「象徴天皇制を望む」ものが女子では国公立69%短大52%私大48%と、国公立と私立大との間に有意差をみせている。一方、「天皇制廃止」は男女とも私立大に多い。

平均して眺めてみると、大半は「象徴天皇制」を望み、性差は全くない。しかし「天皇制廃止」に賛成するものをみると男子の26%にも及び、女子を有意に上回った。結局、大半は現状のままを望み、それに、機能縮小を望むものが若干加わった結果となっている。

## 〔F〕 文化と大学生

この領域では、読書傾向なども調査したが、前回85年の調査結果<sup>(3)</sup>と大差なく、相変わらず推理小説が首位を占めていた。したがって好きな作家も推理小説作家が内外国ともに多く選ばれ、ときに文学作品を挙げるものも中高生時代に学校の授業で学んだ作家、夏目漱石や芥川龍之介などが代表的作家である。

また、週刊誌についてみると、男子の49%が時々読み、ほとんど読まない、全く読まないを合せて30%に達する。これらは大学種別差や地域差がない。女子の場合、よく読むものがやや多く、38%を示したものの、ほとんど読まぬ、全く読まぬも合せて23%もあり、1981年ごろから週刊誌の精読者は減少し、コミックものが増加している。今回はそれらの報告を省略し、読書や新聞の購読率を中心に、かれらの文化との関わり的一端をみることにする。

(1) 自然, 人文, 社会, その他堅い内容の本を読む傾向。

表 21 読書をしているもの

(%)

| 項目        | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-----------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|           | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦よく読む     | ♂  |  | 12.8  | 11.2  | 19.4* | 9.3   | 0.0   | 12.0  |
|           | ♀  |  | 11.1  | 9.3   | 11.3  | 12.9  | 7.8   | 10.2  |
| ㊧時々読む     | ♂  |  | 46.9* | 34.6  | 33.3  | 45.5* | 15.0  | 40.8  |
|           | ♀  |  | 41.9* | 36.8  | 52.1* | 45.5  | 31.4  | 39.3  |
| ㊨ほとんど読まない | ♂  |  | 26.9  | 34.9* | 32.2  | 30.3  | 30.0  | 30.8  |
|           | ♀  |  | 31.9  | 37.4* | 28.2  | 30.9  | 39.2* | 34.7  |
| ㊩まったく読まない | ♂  |  | 13.4  | 19.3* | 15.0  | 15.0  | 55.0  | 16.3  |
|           | ♀  |  | 14.8  | 16.6  | 8.5   | 10.3  | 21.6  | 15.7  |
| ㊪無 答      | ♂  |  | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |
|           | ♀  |  | 0.3   | 0.0   | 0.0   | 0.4   | 0.0   | 0.2   |
| 計         | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 99.9  | 100.1 | 100.0 | 99.9  |
|           | ♀  |  | 100.0 | 100.1 | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.1 |

(2) 新聞はどのくらい読まれているか。

表 22 新聞を読んでいるか (スポーツ紙を除く)

(%)

| 項目          | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|             | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦毎日読む       | ♂  |  | 37.7  | 41.0  | 45.6  | 36.8  | 35.0  | 39.3  |
|             | ♀  |  | 34.2  | 39.7* | 33.8  | 35.6  | 38.9* | 37.0  |
| ㊧ときどき読む     | ♂  |  | 41.0  | 34.6  | 34.4  | 38.8  | 50.0  | 37.8  |
|             | ♀  |  | 37.2  | 44.0  | 42.3  | 37.3  | 42.9* | 40.7  |
| ㊨ほとんど読んでいない | ♂  |  | 21.4  | 24.4  | 20.0  | 24.5  | 15.0  | 22.8  |
|             | ♀  |  | 27.8* | 16.2  | 23.9  | 26.2* | 18.3  | 22.0  |
| ㊩無 答        | ♂  |  | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |
|             | ♀  |  | 0.7   | 0.0   | 0.0   | 0.9   | 0.0   | 0.3   |
| 計           | ♂  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 99.9  |
|             | ♀  |  | 99.9  | 99.9  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 |

## 考 察

読書の中でも, 今回は自然, 人文, 社会, 芸術, 保健など大学の勉強や教養に役立ったり, 生活を考えるような少々堅い内容の読書傾向を調査した。都市に「時々読む」ものが多く, 「読まない」ものは地方に多い結果を示したので, 地域差が目立たぬ今回の調査の中で, この点は注目された。しかし書籍の購入は都市部が地方よりも断然便利なことを考慮すると, この差が俄かに文化度の差などとはいえない。

大学種別でみると、「よく読む」と「時々読む」を合わせると男女とも国公立と私大の差は少ない。しかし短大は国公立に比較して4割も読書率が低い。また、「読まない」と答えたものも短大に極めて多く、短大の読書離れが目立った。短大の読書率の低さは、他の領域におけるいくつかの項目に現われたような短大特有の傾向と併せ考えると、かなり勉学意識の低さや大学の意義の理解の低さを物語っている。

スポーツ紙以外の新聞の購読率は、男子が都市で「時々読む」ものが多く、女子では都市で「読まない」率が高く、地方で「読む」率が高い。新聞を読む、ということは、現代の都市のライフスタイルに似つかわしくない、と考えられるようになったのだろうか。都市のおよそ1/3の女子大生が新聞を殆んど読んでいないという現状は、既出した彼女らの社会的関心の低さを裏付けるものであろう。大学種別では、「毎日読む」が国公立男子で有意に高率を示し46%に達した。ところが女子は逆の傾向で、むしろ短大女子の39%が女子大学生群の中で最も高い率を示した。

「ほとんど読まぬ」は、男女何れも4年制の国公立、私大に多くみられ、多くの点で女子短大生の意識の低さが目立つ中で新聞購読については最も高いレベルを示している。おそらく、女子短大生は卒業までの期間が短かく、就職への必要性から、大学でもそうした指導が行届いているのであろう。全体を平均してみると、新聞を読む傾向に性差はない。男子23%女子22%が新聞を「ほとんど読んでいない」という実状は、驚き、かつ憂慮すべきことである。

## 〔G〕 友人・異性と大学生

### ——その1. 友人と大学生——

#### (1) 親友の有無と親友の人数

表 23 親友の数 (%)

| 項目              | 種別<br>性別 | 都市            | 地方            | 国公立           | 私大            | 私短           | 平均            |
|-----------------|----------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|
|                 |          | ⑦親友をもっている     | ♂<br>♀        | 88.9<br>96.6  | 89.5<br>96.7  | 84.4<br>97.2 | 91.3*<br>95.7 |
| ⑧もっていない         | ♂<br>♀   | 10.2<br>2.7   | 9.2<br>3.0    | 13.9*<br>1.4  | 8.0<br>3.9    | 5.0<br>2.4   | 9.7<br>2.8    |
| ⑨無答             | ♂<br>♀   | 1.0<br>0.7    | 1.4<br>0.3    | 1.7<br>1.4    | 0.8<br>0.4    | 5.0<br>0.3   | 1.2<br>0.5    |
| ⑩上記⑦のうち親友の数1~2人 | ♂<br>♀   | 28.9<br>33.0  | 28.1<br>39.4* | 24.9<br>52.7* | 25.6<br>33.5  | 33.3<br>34.4 | 28.6<br>36.1* |
| ⑪同3~4人          | ♂<br>♀   | 37.4<br>38.9* | 31.9<br>29.6  | 34.2<br>28.1  | 36.5<br>37.9* | 13.4<br>33.3 | 34.7<br>34.4  |
| ⑫同5人以上          | ♂<br>♀   | 33.8<br>28.1  | 40.1<br>30.9  | 31.1<br>19.3  | 38.5*<br>28.6 | 53.3<br>32.4 | 36.9<br>29.5  |

## (2) 親友に対する自己開示性

表 24 親友に何でも話せるか

(%)

| 項目        | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国公立   | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-----------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|           | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦話すことが出来る | ♂  |  | 54.8  | 54.9  | 41.1  | 59.0* | 95.0  | 54.8  |
|           | ♀  |  | 62.8  | 66.6  | 69.0* | 63.1  | 64.9  | 64.7* |
| ①話せない     | ♂  |  | 40.7  | 41.7  | 52.8* | 37.8  | 5.0   | 41.2* |
|           | ♀  |  | 34.6  | 29.8  | 28.2  | 33.9* | 31.8  | 32.2  |
| ㊧無答       | ♂  |  | 4.6   | 3.4   | 6.1   | 3.3   | 0.0   | 4.0   |
|           | ♀  |  | 2.7   | 3.6   | 2.8   | 3.0   | 3.4   | 3.2   |
| 計         | ♂  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 |
|           | ♀  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 |

## (3) 親友に何を望み、期待しているか

表 25 親友に望むこと

(%)

| 項目              | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国公立   | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-----------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                 | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦自分を理解してほしい     | ♂  |  | 17.5  | 16.9  | 21.3* | 15.5  | 16.7  | 17.2  |
|                 | ♀  |  | 23.8  | 19.7  | 22.9  | 22.4  | 21.0  | 21.8  |
| ①話をきいてほしい       | ♂  |  | 5.8   | 6.6   | 6.9   | 5.5   | 13.9  | 6.2   |
|                 | ♀  |  | 8.0   | 8.1   | 10.7  | 8.5   | 7.1   | 8.1   |
| ㊧裏切らないでつきあってほしい | ♂  |  | 19.2  | 20.1  | 17.8  | 20.6  | 16.7  | 19.6  |
|                 | ♀  |  | 17.4  | 17.7  | 14.5  | 16.1  | 19.4* | 17.5  |
| ㊦やさしく親切にしてほしい   | ♂  |  | 4.9   | 5.1   | 4.7   | 5.1   | 5.6   | 5.0   |
|                 | ♀  |  | 4.2   | 4.1   | 1.5   | 4.5   | 4.5   | 4.1   |
| ㊦いろいろ教えてほしい     | ♂  |  | 9.5   | 10.9  | 8.4   | 10.2  | 25.2  | 10.2  |
|                 | ♀  |  | 6.4   | 8.9   | 6.9   | 6.0   | 9.1   | 7.6   |
| ㊦互いに向上すること      | ♂  |  | 36.0  | 34.0  | 34.7  | 35.8* | 22.2  | 35.0  |
|                 | ♀  |  | 36.7  | 37.2  | 39.7  | 37.6  | 35.8  | 36.9  |
| ㊦その他            | ♂  |  | 7.1   | 6.4   | 6.3   | 7.3   | 0.0   | 6.8   |
|                 | ♀  |  | 3.5   | 4.4   | 3.8   | 4.9   | 3.2   | 4.0   |
| 計               | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.1 | 100.0 |
|                 | ♀  |  | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 |

## 考 察 友人と大学生

親友の有無やその数をみると、男子89%女子97%が「親友をもっている」と答え、地域差、大学種別差も全くない。親友が果たす役割はともかく、親友を求める傾向は強い。親友の数も地域



差は少ない。大学種別でみると国公立の女子が私大、短大に比較して親友の数が少なく、親友が5人以上いる者は私大や短大に多い。国公立の女子が親友をかなり限定していることは彼女たちの親友への役割期待や機能が、私大や短大よりも異なっているのであろう。1965年の第1回調査時<sup>①</sup>では、男子9%女子11%が「親友はいない」と答えているが、これと比較すると興味深い。男子の1割は親友を持たず、これは25年前と変化ない。しかし女子は今回3%で、女子の交友の広がりが社会環境の変化によるもの、と考えられる。

表24はかれらの自己開示性に関する項目である。「親友に何でも話せる」という率は国公立女子が最も高く、表25では「話を聞いてくれる」友人と「互いに向上出来る」友人を強く望んでいる。これらを見ると国公立女子はかなり自己を友人に開示し、自我の内面における交友を望んでいるようで、これが親友を限定し、少数に絞った理由と推定される。また国公立に比し、私大男子も幾分、親友の数が多し。一般的に言って、私大や短大が男女を問わず多くの親友をもつことは、かれらの持っている開放的かつ社交性を反映したのであろう。

さらに表24の地域差をみると、ほとんど差異は認められない。大学種別では、しかし大差がみられた。男子では国公立よりも私大の方が5割も開示性が高い。男子の私立短大については、被験者数が少ないことから、ここでは考察の対象から除外するが、国公立と私大との間には  $p < 0.01$  のレベルで差をみせている。一方、女子はこれとは逆の結果が出ているものの、その差は僅かである。結局、自己開示性の低さは、国公立男子のみの特徴のようで、同じ国公立でありながら男子の自己開示の低さと女子の高さは、その真意がつかみ難い。また、85年をピークに、男子の開示性は低下する傾向をみせている。しかし表25の親友に望むことを一瞥すると、その理由はあらまし想像できる。国公立男子が女子にくらべて「裏切らないで」「やさしく親切で」といった情緒的、受動的な期待をしているのに対し、女子は、「理解してほしい」「話を聞いて」「互いに向上したい」など、どちらかといえば理性的要求や関係が多い。国公立男子が、「言わぬうちから自分へ友情を注いでくれる」ような機能を親友に求めているので、自己の開示性が低くなるのではないだろうか。多くの項目の中で、きわめて顕著な特徴をきわ立たせたこの部分は、国公立男子の警戒心と幾分わがままな態度を暗示しているようである。そして、その根底にはかれらの経験した熾烈な長い受験競争や、親のかかわり方の問題も潜んでいることも考えられる。

全体に平均すると、性差も少なく、「互いの向上」「自分を理解して」「裏切らないで」というのが大学生の親友に対する三大希望ということになる。

## —その2. 異性と大学生—

## (1) 異性の友人の有無

表 26 異性の友人を持っているか

(%)

| 項目     | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|--------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦持っている | ♂  |  | 71.2  | 71.9  | 62.8  | 75.5  | 70.0  | 71.5  |
|        | ♀  |  | 85.2* | 76.5  | 87.3  | 86.7  | 74.4  | 80.8* |
| ㊧いない   | ♂  |  | 27.5  | 27.1  | 35.6  | 23.5  | 30.0  | 27.3* |
|        | ♀  |  | 13.1  | 22.2* | 12.7  | 11.2  | 24.0  | 17.7  |
| ㊨無答    | ♂  |  | 1.3   | 1.0   | 1.7   | 1.0   | 0.0   | 1.2   |
|        | ♀  |  | 1.7   | 1.3   | 0.0   | 2.1   | 1.4   | 1.5   |
| 計      | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
|        | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

## (2) 好きな異性のタイプ

表 27 好きな異性のタイプ（2個選択回答）

(%)

| 項目          | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|-------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|             | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦よく働く人      | ♂  |  | 1.1   | 0.7   | 0.6   | 1.1   | 0.0   | 0.9   |
|             | ♀  |  | 2.2   | 3.5   | 4.4   | 2.2   | 3.0   | 2.9   |
| ㊧やさしく親切な人   | ♂  |  | 21.0  | 23.8  | 23.9  | 21.8  | 21.7  | 22.4  |
|             | ♀  |  | 16.7  | 18.7  | 15.5  | 15.1  | 20.3* | 17.7  |
| ㊨明るい人       | ♂  |  | 16.1  | 16.4  | 16.3  | 16.2  | 16.7  | 16.2  |
|             | ♀  |  | 16.6  | 15.8  | 14.5  | 15.4  | 17.3  | 16.2  |
| ㊩知的な人       | ♂  |  | 8.1   | 5.7   | 6.3   | 7.5   | 1.7   | 6.9   |
|             | ♀  |  | 13.7  | 12.3  | 9.2   | 15.3* | 12.1  | 13.0* |
| ㊪容姿や顔立ちのよい人 | ♂  |  | 9.4   | 9.0   | 7.5   | 9.8   | 13.3  | 9.2   |
|             | ♀  |  | 4.6   | 5.4   | 5.3   | 4.0   | 5.7   | 5.0   |
| ㊫おとなしい人     | ♂  |  | 3.9   | 4.9   | 4.4   | 4.3   | 6.7   | 4.4   |
|             | ♀  |  | 0.2   | 6.1   | 0.0   | 0.3   | 0.2   | 0.2   |
| ㊬しっかりした強い人  | ♂  |  | 5.6   | 4.9   | 5.4   | 5.4   | 1.7   | 5.2   |
|             | ♀  |  | 21.1  | 20.3  | 23.7* | 22.6  | 18.5  | 20.7* |
| ㊭他人の立場の分る人  | ♂  |  | 16.4  | 17.5  | 16.8  | 17.0  | 16.7  | 16.9  |
|             | ♀  |  | 18.7  | 18.6  | 22.2* | 19.2  | 17.3  | 18.6  |
| ㊮可愛い人       | ♂  |  | 14.1  | 14.7  | 16.3  | 13.3  | 18.3  | 14.4* |
|             | ♀  |  | 1.3   | 0.5   | 0.0   | 0.9   | 1.1   | 0.9   |
| ㊯活発な人       | ♂  |  | 4.4   | 2.3   | 2.7   | 3.7   | 3.3   | 3.4   |
|             | ♀  |  | 4.3   | 4.9   | 5.3   | 5.1   | 4.7   | 4.9   |
| 計           | ♂  |  | 100.1 | 99.9  | 100.2 | 100.1 | 100.1 | 99.9  |
|             | ♀  |  | 100.0 | 100.1 | 100.1 | 100.1 | 100.2 | 100.1 |

## (3) 嫌いな異性のタイプ

表 28 嫌いな異性のタイプ (2個選択回答)

(%)

| 項目                 | 種別  |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|--------------------|-----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                    | 性 別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㉚ 怠けものの人           | ♂   |  | 4.3   | 5.7   | 5.4   | 4.8   | 5.0   | 5.0   |
|                    | ♀   |  | 8.3   | 8.0   | 6.3   | 9.7   | 7.4   | 8.2   |
| ㉛ 暗い人              | ♂   |  | 7.8   | 6.3   | 4.5   | 8.0   | 10.0  | 7.0   |
|                    | ♀   |  | 8.5   | 8.4   | 6.3   | 8.8   | 8.7   | 8.5   |
| ㉜ うそをつく人           | ♂   |  | 12.1  | 13.3  | 13.7  | 11.9  | 20.0  | 12.7  |
|                    | ♀   |  | 15.7  | 14.1  | 15.0  | 14.5  | 15.1  | 14.9* |
| ㉝ 軽率な人             | ♂   |  | 7.2   | 7.2   | 7.2   | 7.3   | 5.0   | 7.2   |
|                    | ♀   |  | 10.9  | 11.3  | 13.6  | 11.7  | 10.1  | 11.1* |
| ㉞ 容姿や顔立ちの<br>よくない人 | ♂   |  | 5.9   | 4.3   | 3.9   | 5.7   | 5.0   | 5.1   |
|                    | ♀   |  | 1.4   | 1.7   | 1.0   | 1.2   | 2.0   | 1.5   |
| ㉟ 自分勝手に冷たい人        | ♂   |  | 18.7  | 20.5  | 20.1  | 19.4  | 18.3  | 19.6* |
|                    | ♀   |  | 16.4  | 17.6  | 14.1  | 15.9  | 18.6* | 17.0  |
| ㊱ 甘えん坊の人           | ♂   |  | 1.8   | 1.1   | 1.4   | 1.6   | 0.0   | 1.5   |
|                    | ♀   |  | 2.2   | 2.2   | 2.4   | 2.2   | 2.1   | 2.2   |
| ㊲ 文句がましい人          | ♂   |  | 11.2  | 13.0  | 12.8  | 11.7  | 13.3  | 12.1  |
|                    | ♀   |  | 13.8  | 16.3  | 18.0  | 14.4  | 14.9  | 15.1  |
| ㊳ 派手で見栄っばりの人       | ♂   |  | 14.4  | 12.0  | 14.3  | 12.7  | 13.3  | 13.2* |
|                    | ♀   |  | 9.1   | 8.2   | 9.2   | 8.1   | 8.9   | 8.6   |
| ㊴ でしゃばる人           | ♂   |  | 6.0   | 7.6   | 7.9   | 6.6   | 1.7   | 6.8   |
|                    | ♀   |  | 5.2   | 5.5   | 6.8   | 5.9   | 4.6   | 5.4   |
| ㊵ 意地悪な人            | ♂   |  | 10.5  | 9.2   | 8.9   | 10.4  | 8.3   | 9.9   |
|                    | ♀   |  | 8.5   | 6.7   | 7.3   | 7.6   | 7.6   | 7.6   |
| 計                  | ♂   |  | 99.9  | 100.2 | 100.1 | 100.1 | 99.9  | 100.1 |
|                    | ♀   |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 99.8  | 100.0 | 100.1 |

## (4) 性的経験の有無と進行度

表 29 性的経験の程度 (%)

| 項目             | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦何もない          | ♂  |  | 59.7  | 57.0  | 70.0* | 53.5  | 50.0  | 58.3  |
|                | ♀  |  | 64.4  | 63.9  | 57.7  | 64.8* | 65.2* | 64.2* |
| ㊧キスまたはベッティングまで | ♂  |  | 9.4   | 11.8  | 10.0  | 11.2  | 0.0   | 10.7  |
|                | ♀  |  | 11.1  | 12.9  | 18.4* | 15.9  | 13.5  | 15.0* |
| ㊨セックスまで        | ♂  |  | 25.6* | 20.7  | 12.8  | 28.0* | 25.0  | 23.2* |
|                | ♀  |  | 16.8  | 16.2  | 18.3* | 11.6  | 19.9* | 16.5  |
| ㊩無 答           | ♂  |  | 5.3   | 10.5  | 7.2   | 7.3   | 25.0  | 7.8   |
|                | ♀  |  | 1.7   | 7.0   | 5.6   | 7.7   | 1.4   | 4.3   |
| 計              | ♂  |  | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
|                | ♀  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

## (5) 将来の結婚相手の性経験に対する態度

表 30 将来の結婚相手の性経験について (%)

| 項目         | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|------------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|            | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ㊦純潔であってほしい | ♂  |  | 27.9  | 31.2  | 33.9* | 27.3  | 35.0  | 29.5* |
|            | ♀  |  | 8.7   | 9.9   | 15.5  | 11.6  | 6.1   | 9.3   |
| ㊧場合による     | ♂  |  | 26.2  | 25.1  | 25.0  | 26.5  | 15.0  | 25.7  |
|            | ♀  |  | 19.8  | 25.2  | 16.9  | 20.2  | 25.5* | 22.5  |
| ㊨気にしない     | ♂  |  | 37.4  | 37.0  | 33.3  | 38.8  | 40.0  | 37.2  |
|            | ♀  |  | 52.7  | 51.7  | 56.3* | 49.4  | 53.2  | 52.2* |
| ㊩分 ら ぬ     | ♂  |  | 7.6   | 6.4   | 7.2   | 6.8   | 10.0  | 7.0   |
|            | ♀  |  | 18.1* | 12.9  | 11.3  | 18.0  | 15.0  | 15.5  |
| ㊪無 答       | ♂  |  | 1.0   | 0.3   | 0.6   | 0.8   | 0.0   | 0.7   |
|            | ♀  |  | 0.7   | 0.3   | 0.0   | 0.9   | 0.3   | 0.5   |
| 計          | ♂  |  | 100.1 | 100.0 | 100.0 | 100.2 | 100.0 | 100.1 |
|            | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.1 | 100.0 |

## 考 察 異性と大学生

「異性の友人をもっている」と答えた率は7割ほどで男子の場合、地域差はない。しかし女子では都市が85%を示し、最高値である。都市の女子の行動性を示すものであろう。大学種別ではいくつかの点でかなりの差が認められた。すなわち男子は国公立よりも私大の方が異性の友人を

多く持つが、一方、女子は国公立と私大との間に差がまったく認められないにもかかわらず、短大のみ異性の友人をもつ率が低い。これは短大には共学大学が少なく、女子のみの集団が多いから、と考えてよい。全体を通した平均では、男子72%女子81%が異性の友人をもっている。女子の方が男子を上回って高率なのは過去2回（81, 85年）の調査と同様な傾向であり、またその率も今回が最高であった。

好きな異性のタイプについては、地域差が全くない。すでに指摘したように、同一文化、同一生活様式を与えられる現代の学生にとっては、異性に対する好みもまた画一化して不思議はない。大学種別でみると、まず国公立男子に「可愛い」「やさしい親切な人」を、私大では「容姿」を挙げたものがそれぞれ幾分多い。これは「友に何を期待するか」の項目でも、国公立が「やさしさ」「親切」を求める傾向があり、こうした受動的な情緒性への願望を異性に対しても求めているようである。一方、短大女子では「やさしく親切」「明るい人」が多く、「知的な人」が私大女子に目立つ。そして国公立女子では「しっかり者」や「他人の立場の分る人」が短大女子よりも有意に多い。全体を通して性差をみると、男子は女子に「やさしさ」「可愛さ」「容姿」を、女子は男子に「しっかり者」「知的な人」を、そして男女共通して「やさしく親切」「明るさ」「他人の立場が分る」人、を望んでいる。

短大女子が「やさしさ」や「明るさ」といった、やや表面的な異性の姿にあこがれを抱いているのに対し、国公立や私大の女子は「しっかり者」や、私大のように「知的さ」を求め、異性に内面的部分への要求をしているようである。

嫌いな異性のタイプでも地域差はほとんど認められないし、大学種別でみても男子では、差がない。僅かに私大が「暗い人」という特性を多く挙げた程度である。女子の場合は、国公立が私大よりも「軽率な人」や「文句がましい人」「でしゃばる人」を嫌いな異性に挙げ、他方、国公立よりも私大、特に短大に「自分勝手に冷たい人」が多く挙げられている。

以上、異性の好き嫌いのタイプをまとめると、国公立男子は概して女子に甘え、活動性を嫌い、私大の男子は容姿を気にしている、といえる。また国公立の女子は男子が怠け者であることよりも、文句がましい軽率さの方を嫌う傾向をみせている。この点は、国公立に関する限り、女子の優位な意識、積極的行動性を示している。しかし女子の私大、短大は男子の怠け者や冷たい特性を嫌う点が多く、私大、短大の女子に男子依存型の傾向が多いようであり、国公立女子に比し、男子に対して、かなり異なった意識をもっている。

性的経験の程度について考察しよう。地域差は、セックスまで経験したものが都市の男子に有意に多いほかは、差はあまりない。しかし大学種別でみると差は著しい。男子国公立では性的経験の皆無が70%で、私大を大きく上回っている。したがってセックスの経験も国公立は私大の半数以下である。女子についてみると男子とは逆で、キスやペッティング経験者は国公立が私大、短大よりも高率で18%に達し、セックスも短大についで多い。こうした中で特徴的なのは短大女

子で、性的経験皆無の率をもっとも高く、2/3に達しているが、しかしセックスの経験者も他の群より最も高い20%を示している。

これを総合して、女子は短大と国公立が性的開放度が高く、男子は私大が高い。国公立女子の性的経験度の高さと、他の領域にみられた数々の積極性とは、恐らく共通した要因が働いているのであろう。また、短大女子が異性の友人が少ないにもかかわらず、セックスの経験率が20%と最高率を示したが、短大女子は、性への態度が二極分化しているといえる。

さらにもう一点、女子がキスやセックスの段階に進んでも、性的経験率がほぼ同率であるのに対し、男子は性的経験の段階が深まるほど、経験率がふえていく点が注目される。男子は一度軽微な性的体験をすると、それ以上の性的行動を抑えがたい欲求が生じてしまうのではないだろうか。この傾向は、過去の調査でもほぼ同様の結果をみせている。

将来の結婚相手が性体験をもっていることに対する態度をみると、国公立男子が私大よりも純潔性を望み、女子も国公立が私大、短大よりも強く望んでいる。全体として国公立の方が異性の純潔性を求めている。また、平均して男子は女子よりも性体験が多いにもかかわらず、女子の倍も高率で結婚相手の処女性を望んでいることなど、男女の性への意識の差の大きさは、きわめて注目される。

なお、81年以来、男女ともセックス経験率にあまり変化がみられない。

## 〔H〕 家族と大学生

### (1) 悩みの相談相手としての家族の機能

表 31 悩みのある時は誰に相談するか

(%)

| 項目      | 種別  |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|---------|-----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|         | 性 別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ⑦ 父     | ♂   |  | 3.0   | 3.4   | 3.9   | 3.0   | 0.0   | 3.2   |
|         | ♀   |  | 0.3   | 0.3   | 0.0   | 0.4   | 0.3   | 0.3   |
| ① 母     | ♂   |  | 11.5  | 9.8   | 10.6  | 11.0  | 5.0   | 10.7  |
|         | ♀   |  | 9.4   | 16.6* | 23.9* | 11.6  | 11.5  | 13.0  |
| ⑤ ぎょうだい | ♂   |  | 2.0   | 3.1   | 3.3   | 2.0   | 5.0   | 2.5   |
|         | ♀   |  | 6.0   | 6.3   | 2.8   | 5.2   | 7.8   | 6.2*  |
| ⑥ 友 人   | ♂   |  | 62.0  | 66.1  | 61.1  | 64.3  | 85.0  | 64.0  |
|         | ♀   |  | 73.5  | 70.2  | 66.2  | 71.7  | 73.3* | 71.8* |
| ④ そ の 他 | ♂   |  | 20.0  | 17.0  | 20.0  | 18.5  | 5.0   | 18.5* |
|         | ♀   |  | 10.4  | 6.0   | 7.0   | 11.2  | 6.1   | 8.2   |
| ⑦ 無 答   | ♂   |  | 1.6   | 0.7   | 1.1   | 1.3   | 0.0   | 1.2   |
|         | ♀   |  | 0.3   | 0.7   | 0.0   | 0.0   | 1.0   | 0.5   |
| 計       | ♂   |  | 100.1 | 100.1 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.1 |
|         | ♀   |  | 99.9  | 100.1 | 99.9  | 100.1 | 100.0 | 100.0 |



(5) 家族から期待され、認められているか

表 35 家庭で期待され、認められているか

(%)

| 項目     | 種別 |  | 都 市   | 地 方  | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|--------|----|--|-------|------|-------|-------|-------|-------|
|        | 性別 |  |       |      |       |       |       |       |
| ㉗は     | ♂  |  | 36.4* | 28.1 | 32.2  | 33.5  | 10.0  | 32.3* |
|        | ♀  |  | 33.6* | 22.8 | 33.8  | 35.2* | 21.3  | 28.2  |
| ①ふ つ う | ♂  |  | 43.9  | 53.2 | 53.9  | 45.8  | 55.0  | 48.5  |
|        | ♀  |  | 49.3  | 62.9 | 56.3  | 51.1  | 60.1* | 56.2* |
| ②い い え | ♂  |  | 9.5   | 5.8  | 3.3   | 9.3*  | 15.0  | 7.7   |
|        | ♀  |  | 5.7   | 4.5  | 2.8   | 4.7   | 6.1   | 5.2   |
| ③分 ら ぬ | ♂  |  | 9.8   | 12.5 | 10.0  | 11.3  | 20.0  | 11.2  |
|        | ♀  |  | 10.7  | 9.3  | 7.0   | 8.6   | 11.8  | 10.0  |
| ④無 答   | ♂  |  | 0.3   | 0.3  | 0.6   | 0.3   | 0.0   | 0.3   |
|        | ♀  |  | 0.7   | 0.3  | 0.0   | 0.4   | 0.7   | 0.5   |
| 計      | ♂  |  | 99.9  | 99.9 | 100.0 | 99.8  | 100.0 | 100.0 |
|        | ♀  |  | 100.0 | 99.8 | 99.9  | 100.0 | 100.0 | 100.1 |

(6) 父母に何を望んでいるか。

表 36 父母に何を望むか (2個選択回答)

(%)

| 項目                       | 性別 | 大学種別 |   | 国 公 立    |          | 私 大      |          | 私 短      |          | 平 均      |          |
|--------------------------|----|------|---|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
|                          |    | 父母の別 |   | 父 に 対 して | 母 に 対 して | 父 に 対 して | 母 に 対 して | 父 に 対 して | 母 に 対 して | 父 に 対 して | 母 に 対 して |
|                          |    | ♂    | ♀ |          |          |          |          |          |          |          |          |
| ㉗健康に注意し、もっと休息し、節煙等に気をつけて | ♂  |      |   | 41.1     | 41.4     | 42.2     | 43.4     | 36.8     | 39.4     | 41.6     | 42.7     |
|                          | ♀  |      |   | 37.4*    | 46.7     | 36.6     | 40.9*    | 38.2     | 42.5*    | 37.5     | 42.3     |
| ④子供を理解して                 | ♂  |      |   | 7.3      | 9.2      | 7.3      | 9.6      | 12.2     | 12.1     | 7.4      | 9.5      |
|                          | ♀  |      |   | 9.6      | 7.3      | 13.4     | 11.5     | 15.3     | 15.3     | 13.9     | 13.0     |
| ⑤家庭を大切に                  | ♂  |      |   | 6.0      | 7.9      | 3.8      | 6.0      | 4.1      | 15.2*    | 4.5      | 6.8      |
|                          | ♀  |      |   | 9.1      | 7.3      | 8.2      | 5.9      | 6.3      | 4.8      | 7.4      | 5.5      |
| ⑥しっかりと、威厳をもって            | ♂  |      |   | 9.2*     | 3.0      | 6.7*     | 2.6      | 4.1      | 0.0      | 7.4      | 2.6      |
|                          | ♀  |      |   | 4.3      | 2.0      | 6.0      | 2.5      | 6.9      | 2.6      | 6.3      | 2.5      |
| ⑦夫婦仲良く、楽しく暮して            | ♂  |      |   | 30.1     | 32.9     | 28.6     | 32.2     | 24.5     | 27.2     | 28.9     | 32.3     |
|                          | ♀  |      |   | 33.7     | 30.7     | 26.6     | 30.4     | 26.5     | 29.2     | 27.4     | 29.8     |
| ⑧わがままをやめて                | ♂  |      |   | 1.5      | 1.5      | 3.3      | 1.4      | 2.0      | 3.0      | 2.7      | 1.5      |
|                          | ♀  |      |   | 3.7      | 2.0      | 4.2      | 2.9      | 3.5      | 3.1      | 3.8      | 2.9      |
| ⑨そのほか                    | ♂  |      |   | 1.9      | 4.2      | 4.1      | 4.8      | 8.1      | 3.0      | 3.6      | 4.6      |
|                          | ♀  |      |   | 2.1      | 4.0      | 4.9      | 6.1      | 3.2      | 2.6      | 3.8      | 4.0      |
| 計                        | ♂  |      |   | 100.1    | 100.1    | 100.0    | 100.0    | 99.8     | 99.9     | 100.1    | 100.0    |
|                          | ♀  |      |   | 99.9     | 100.0    | 99.9     | 100.2    | 99.9     | 100.1    | 100.1    | 100.0    |



## (7) 大学生は将来、自分の子どもを何人ほしいか

表 37 将来欲しい子供の数

| 項目       | 種別 |  | 都 市   | 地 方   | 国 公 立 | 私 大   | 私 短   | 平 均   |
|----------|----|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          | 性別 |  |       |       |       |       |       |       |
| ⑦子供はいらぬ  | ♂  |  | 8.9*  | 4.4   | 3.9   | 8.3*  | 0.0   | 6.7   |
|          | ♀  |  | 7.0   | 6.0   | 8.5   | 8.6   | 4.4   | 6.5   |
| ①1 人     | ♂  |  | 3.9   | 5.8   | 5.6   | 4.3   | 10.0  | 4.8   |
|          | ♀  |  | 3.4   | 4.0   | 2.8   | 3.0   | 4.4   | 3.7   |
| ②2 人     | ♂  |  | 62.0  | 57.6  | 60.0  | 59.5  | 65.0  | 59.8  |
|          | ♀  |  | 63.4* | 55.6  | 45.1  | 60.5  | 62.4* | 59.5  |
| ③3 人 以 上 | ♂  |  | 20.3  | 27.8* | 26.1* | 23.3  | 20.0  | 24.0  |
|          | ♀  |  | 24.5  | 33.1* | 42.3* | 25.8  | 28.1  | 28.8* |
| ④無 答     | ♂  |  | 4.9   | 4.4   | 4.4   | 4.8   | 5.0   | 4.7   |
|          | ♀  |  | 1.7   | 1.3   | 1.4   | 2.1   | 1.0   | 1.5   |
| 計        | ♂  |  | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.2 | 100.0 | 100.0 |
|          | ♀  |  | 100.0 | 100.0 | 100.1 | 100.0 | 100.3 | 100.0 |

## 考 察

まず、かれらにとって家庭ないしは家族がどんな機能を果たし、かかわり方をしているか、みてみよう。表31で、悩みの相談相手として誰を選ぶか回答を求めたが、これには地域差が全くない。例外的に、女子は都市よりも地方で母を相談相手に選ぶ者が有意に高率を示した。大学種別では、男子には差が認められぬが、国公立女子は「母に相談」が私大、短大の2倍強の高率で有意差をみせ、きょうだいを挙げた女子は短大よりも有意に低い。平均して、男女とも「母に相談」が多く、母親の機能はかれらの心の支えとして大きい、と言える。無論、家族よりも友人を相談相手にするものが突出して高いが、これは1965年以来の調査に共通しており、親への依存性より友人への依存性が高まることは、時代や社会環境的要因を超えた、青年期の生物学的ともいえるほどの特質であることが分る。

さて、国公立の女子に母親への依存度が高い点が目立ったが、他の領域の調査項目で、彼女たちはかなり進歩的であり、同男子よりも論理的な姿勢を示していたことを考えると、母親依存の高さは少々理解に苦しむ。おそらく、国公立女子が私大や短大に比較して親友の数が少ないこととも関連しているのであろう。その他、家庭からの期待度の高さ(表35)や、関わり方の密度(表32)、さらには大学進学動機の中で「親を安心させるため」を私大よりも多く選んだ(表3)こと、などを併わせ考えると、母親への依存度の高さは一層よく理解できる。表面的には少々ラジカルな特性も、根底には家庭への依存性の上に成り立っているのではないだろうか。また、家庭への依存性や関わりが多くない方が、社会的で明るく、しかし社会的関心度は低い、という特徴を短

大女子や私大男女に見ることが出来た、とあってよい。

次に家族との団欒の機会をみると、これも地域差はない。大学種別でみると、男子には差異がないが、国公立女子には「機会がある」と「ない」が、はっきりした二極分化がみられる。しかし平均値でみると「機会がある」ものは、私大、短大に比較して国公立女子が最も多く、国公立女子の家族との関わりの深さが目立っている。なお、平均してみた場合、性差はなく、男女とも半数が団欒の機会をもち、機会のないものは1割程にすぎない。

家庭からの期待についてみよう。地域差がここで珍しくみられた。都市の方が地方よりも期待度が有意に高い。その理由としては、子どもの教育費がかさむことや受験競争に対する意識の強さ、一家庭あたりの子どもの数の少ないこと、などが考えられよう。また、大学種別でみると、国公立や私大に比し、短大は期待度が著しく低いことが注目される。あまりの短大女子への「期待度の低さ」には驚かされる。短大女子は他の2群に比較して、家庭でも団欒の機会が少なく、母親よりも友人をはるかに多く相談相手とし、自己自身を頼ることも少なく、性体験、特にセックスの経験率が高い。小遣いが1カ月1万円未満という低額ランクのものが国公立女子よりも50%も多く、また、児童期には母親が仕事で不在がちであった率が高い等々、彼女らを取巻く環境条件は、国公立や私大に比較して決してよいとはいえない。彼女たちの大学生活の満足度が低いことも、こうした諸条件を反映してはいまいか。

家族との衝突は、どうだろうか。地域別では地方の男子に「めったにない」がやや多い程度で、あまり差はない。大学種別でみると国公立男子は有意に「めったにない」が多く、43%の高率をみせた。一方、女子の場合、ほとんど差は認められない。何度も指摘しているように、国公立男子が情緒的でおとなしく、やや閉鎖性を示すようであるが、ここでもまた家庭との衝突が少なく、物分りのよい優等性タイプの像がみえる。平均してみると、女子よりも男子の方が家族との衝突が少ないことも最近の青年男子のおとなしい傾向を示したといえよう。

ところで、「いつも家族と衝突している」ものは僅かに6~9%で、おとなしい青年(大学生)の一語に尽きるが、しかし彼らもまた中高生時代には家庭内暴力をふるうことがあった。地域差は全くないが、大学種別では私大男子が20%という高率で暴力をふるったという。これは国公立男子の14%を上回ったが、平均してみると男子18%女子12%が家庭内暴力経験者で、中高生時代の家庭内の暴力の多いこと、しかしその多くは一過性であることもこの調査結果は裏付けている。また、中高生時代の家庭内暴力経験には、国公立、私大、短大間にはそれほどの差がなかったことは、中高生の家庭内暴力が青年期に共通した自我発達に由来する現象ともいえよう。

それでは、大学生たちは自分の両親に何を望んでいるのであろうか。これは、かれら自身の将来の家庭像を推測する上でも興味がある。この項目では地域差は全く認められず、表示を省略した。大学種別でみた場合も男子は父母何れに対しても望むことがらに有意差はない。しかし、女子では大学種別による差がみられた。父に対して「子供を理解して」を選ぶものが国公立、私

大、短大の順で高くなり、特に短大は突出している。また、国公立女子が、父に「夫婦仲良く、楽しく暮して」と望んだものが目立って多い。すでに述べてきた多くの結果から考えて、女子の不満というよりも、平和な家庭像を期待する、という意味であろう。一方、母親への希望は国公立が私大や短大よりも「健康に注意し休養を」と望む率が高い。また、「子供を理解して」という項目が国公立女子は最も低く、国公立女子の家庭とのかかわりのよさをここでも知ることが出来る。平均してみた場合、父親への希望に性差は少なく、「子供を理解してほしい」が男子よりも女子に2倍ほど多いのが目立つ程度である。一方、母親に対する希望でも性差はない。

次に父親と母親にに対しての希望に差が認められるか、みてみよう。男子では父親に対して「しっかりして」が幾分多い程度で、これまた差らしいものも見当らぬ。女子では、母親には「健康に注意して」が幾分多いぐらいであり、父親と母親への役割期待の分化が今や急速に崩壊しているのではないか、と思われる。

「健康に注意し、夫婦仲良く楽しく暮して」という大方の希望は、大学生の精神的成熟を示すものか、あるいは冷めた関係を示すのか、それとも、あまりに問題意識がないための常識的反応なのか、真意のほどは分らない。

最後に大学生が将来ほしい子どもの数を調査した。地域別では、都市の男子に「子供はいらぬ」と答えたものが9%もあり、1965年の調査の男子3%女子0%と比較して、この増加は極めて注目される。また、半数以上のものが「2人ほしい」という。これも65年には男子50%女子の33%が「3人ほしい」と答えているので、着実に欲しい子ども数は減少している。大学種別でみると、国公立男子が幾分、子たくさんを希望し、特に同女子は「3人以上」と答えたものが42%を占め、私大や短大を5割ほども上回って高率を示した。これらは、国公立と私大間の意識の相違というよりも、国公立大生の家庭の経済的豊かさを反映しているであろう。

## V 総 括（結論）

[A]大学と大学生にはじまって、[H]家族と大学生まで8領域にわたり、考察をすすめてきた。あらためてこれを総括し、結論とする。

(1) **地域差**：当初の研究目的の一つであった生活意識や態度などの地域的差異は、ごく部分的には認められたものの大部分の領域、項目で有意差は認められなかった。行動面や日常生活習慣も、あるいは自我関与度の高い内面的態度についても差がみられない。地方の大学生の方が読書率が低い、といった地域差もみられたが、しかし一方では新聞をよく読むものは地方に多い。また都市に多数の親友をもつものが多いといっても、何れも文化的な意味での地域差ではない。今や同一文化、同一生活様式の同時受容が浸透したとみてよい。

(2) **大学種別による差**：大まかにいって国公立と私大との間の差は予想より小さかった。その

中で時折、突出して差異を示したものを列举して、若干の大学種別の特徴を示してみよう。

**国公立**：大学生活への満足度が高い。高校以上の勉強をしたい（男子）。就職のための進学（女子）。短所は無責任さであると自覚している（男子）。宗教は不必要とするものが多く、心の拠りどころは自己である（男子）。女性は出産後も就業することが望ましい。余暇は読書かゴロ寝するものが多い。親友は少なく、自分を理解してもらいたい（男子）、互いの向上を期待する（女子）。異性は、やさしく親切な女性が好まれ（男子）、しっかりした他人の立場の分る男性を好む（女子）。男子の性的体験は低いが女子は逆に高い。悩みの相談相手に母親を多く選び、家族との団欒の機会も多い（女子）。家族との衝突は少ない（男子）。

以上が国公立大学生で私大、短大よりも著しい差をみせた回答をピックアップしたものである。これらの一見バラバラな傾向に共通支配している要因を次のように推定する。勉学へのまじめな取組み、消極的態度、やさしさ、家族との深い絆等である。

**私大**：就職までの期間、のんびりしたい（女子）。短所としては、遊びすぎる（男子）。大学生活の満足度は乏しい（男子）。将来は生きがいのある生活をしたい。女性の結婚後の就業には消極的なものが多い（男子）。小遣いの額は多い（女子）。親友の数は多く、異性の友人も多い。知的な異性を好み（女子）、性的経験者はやや高い（男子）。家庭での期待は強い（女子）。

以上が私大の学生の回答のうち、顕著な傾向をみせたものである。これらの特徴に共通している点は何か。高い社交性、堅実な将来志向、保守的な意識、遊びすぎと大学生活への不満などである。

**短期大学（女子のみ）**：高学歴を得るための進学。積極的で遊びすぎ、という自己評定。アルバイトの多さ。短大生活の満足度の低さ。多数の友人。将来はのんびりした家庭第一の生活を希望し、結婚後の女性の就業には否定的。児童期のころ母親の就業率が高い。読書は少なくTVをよくみる。やさしく明るい異性を好み冷たい身勝手な異性を嫌う。性的体験の程度は二極分化している。家族団欒の機会は少なく、家庭からの期待度は小さい。両親には子どもを理解してほしいと願っている。

以上が短大女子の特徴の要点であるが、そこに共通した要因を求め女子短大生の像を描き出すと次のようになろう。経済的背景にやや恵まれぬがよく遊び、積極的な生活態度である。大学を就職とあまり深く結びつけず、結婚するためのステップと考える。家族からのかかわりが少なく、友人とのかかわりは極めて大きい。

こうした女子短大生の傾向については岡村<sup>(10)</sup>や藤田ら<sup>(11)</sup>も詳細な調査研究をしており、ほぼ近似した結果を得ている。特に岡村の研究によると、学生が大学生としてのアイデンティティをもたずに進学していることを強調している。そして岡村は教育の全体構造の問題として、こうした特徴を受けとめている点、本研究の場合でも同様の所感が得られた。

(3) **性差**：あらためて取りあげるべきものはない。

(4) **結語**：このように国公立、私大、短大の特徴を列挙すると、以上の3群間に大きな有意差があったような印象を受けるかもしれぬが、そうではない。8領域50項目、200余の回答選択肢の中から3群間に著しい差のあったものをここで取り出したにすぎず、全体的には有意差のあるものは1割程度であり、むしろあまりの差のないことを強調すべきであろう。例えば、大学の進学目的も「就職のため」が国公立、私大、短大を問わず第1位であり、自らの短所に「不勉強」を挙げたものが最も多い。今回の調査結果の何よりも重要なことは、日本の大学生が多くの点で平準化してきたことと、同時に個性を喪失したことであろう。大学入学志願者の絶対数が大である今日、熾烈な受験競争も、またやむを得まい。しかしそこに偏差値教育に振り回されてきた青年の苦悩と、受験競争に歪んだ青年の姿などが、今回の研究は多くの角度から間接的に浮彫りしていると思う。さらには大学格差を肯定する偏見も、この小研究が、いかに虚像であるかを示唆したもの、と思う。

吉岡<sup>(12)</sup>もこうした点について綿密な調査研究を行っている。それによると、国公立大と私大との間にはかなりの差が認められている。例えば、授業無欠席者は国公立にやや多いとか、板書をよく書き写し、私語が少ないなどの特徴がみられるという。しかし肝心の「やる気を失っている」大学生は国公立、私大とも何れも13%を占め、国公立の方が私大に比し高校時代ほどには勉強しない(62%)、ボーッととして過ごす(27%)など私大を上回っており、本質的な学生の意識の面では、吉岡の調査も本調査結果も同様な傾向を示しているといえよう。

また、今回の調査研究は、われわれ大学人に対してもいくつかの反省すべき点を示唆している。教員の短所に、「教授法が下手」であることや「人格的に欠く」という項目など、サンプルのすべての大学に共通して上位を占めたことは、とかく他者から問われ試されることの少ない大学教員に自戒の念を持つことが要求されよう。さらに私大の「学費」への不満や「入試制度」「一般教育のあり方」など、かれらの声に謙虚に耳を傾けるべきであろう。

#### 参考・引用文献

- (1) 大学生の生活と態度 駒崎勉 富士短大紀要 287~312, 10, 1965
- (2) 大学生の生活態度と意識構造の推移 駒崎勉 第99回日本心理学会論文集 457, 1985
- (3) 日本における大学生の生活行動と意識構造——とくに専攻系列比較 駒崎勉 城西大学研究年報 1~35, 12, 1988
- (4) 学校基本調査速報 文部省 1989
- (5) 青年心理学 教師養成研究会編 1954
- (6) 学生生活の充実感 中村昭之 林潔 第51回日本応用心理学会論文集 56~57, 1984
- (7) 血液型と性格 大村政男 1990 福村出版
- (8) 女子大学生からみた性差意識 高嶋正士ほか 第54回日本応用心理学会論文集 56~57, 1987
- (9) 首都圏未婚女性の会社員へのアンケート調査 鐘紡株式会社 朝日新聞経済面記事 1991.2.8付
- (10) 短期大学生の生活行動と意識構造の変容 岡村一成 富士短大紀要 47~64, 35, 2, 1990
- (11) 城西女子短大生の意識構造 後藤敏夫 藤田主一ほか 城西大学女子短大 研究グループ編 1989
- (12) 現今大学生の学習意欲に関する一考察(2) 吉岡剛 佛教大学教育学部論集 22~48, 2, 1990

- (13) 女子学生の生活態度・意識について 野村晶子 第28回日本教育心理学会 総会論文集 1986
- (14) 大学生の生活様相と意識構造の推移 日野晴男 第54回日本心理学会 大会論文集 1990
- (15) 女子学生の性に関連する意識 森下節子, 小池妙子 ほか 第57回 日本応用心理学会 論文集87  
1989
- (16) 国民生活時間調査 NHK放送文化研究所 1985
- (17) 現代社会と青年 総務庁編 1990

**付 記** 本調査を実施するにあたり、調査対象者2,247名の大学生諸君の協力を得たことに感謝したい。全国23大学の調査には貴重な講義時間を使わせていただいた。そのさい各大学教員へ紹介をいただくなど、ひとかたならぬご尽力とご迷惑をおかけした先生方のお名前をここに記し、衷心より感謝申し上げる次第である。

金子康朗, 風間亮一, 小笠原正薫, 那知上裕, 竹内修身, 清水敦彦, 岡村一成, 岡本健, 関忠文, 篠三知雄, 浮谷秀一, 村井健祐, 棚原健次 (敬称略)

また厩大なデータの整理と計算の分担を引き受けられた次の方々のお名前を記し、その労を多としたい。

落合スエ子, 金森スミ子, 神田智子, 田中敬子, 諸川素美子, 星全子 (敬称略)